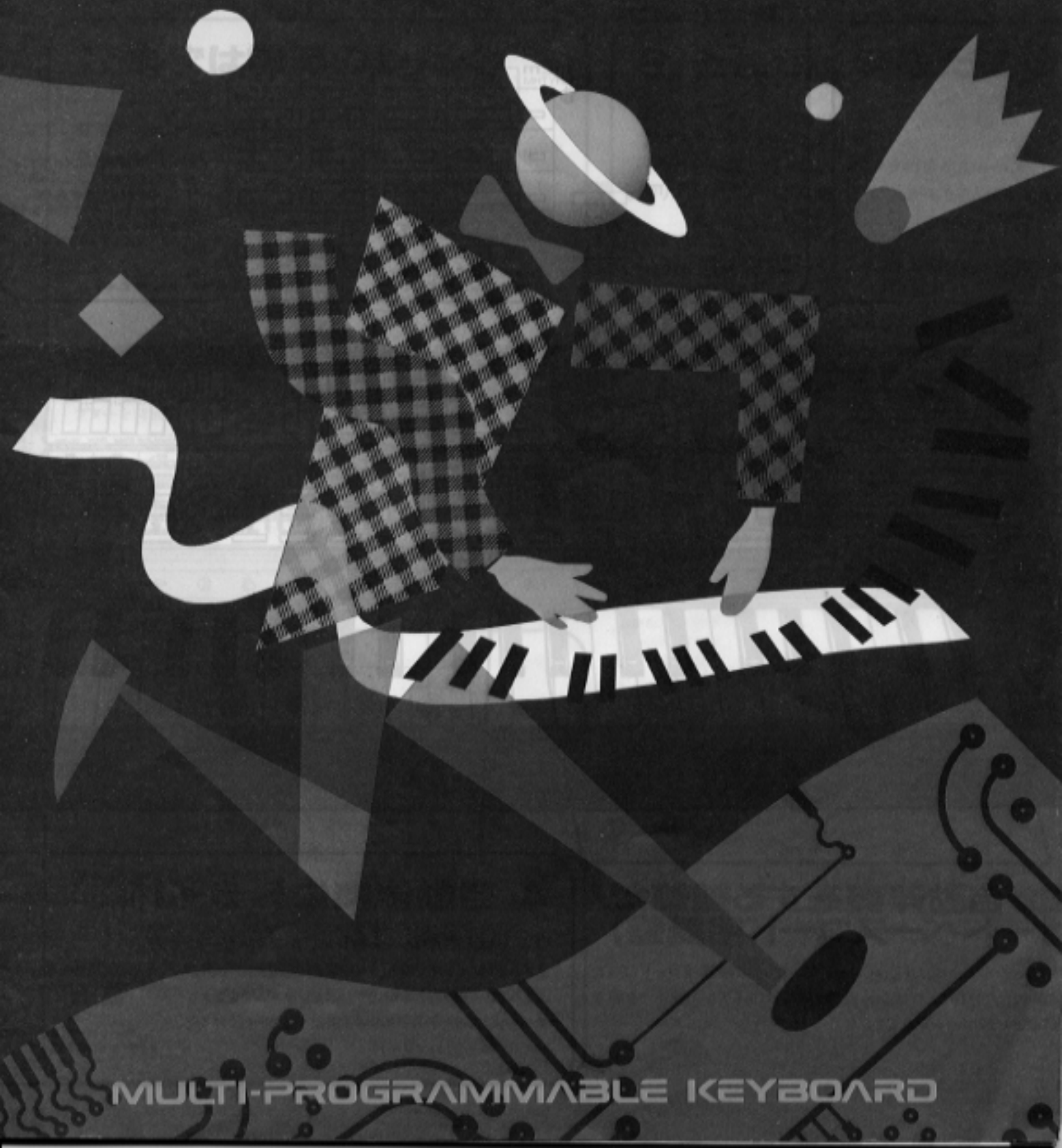


# YAMAHA PortaSound

プレイガイド  
(取扱説明書)

PSS-560

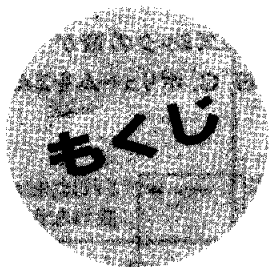


MULTI-PROGRAMMABLE KEYBOARD



# ヤマハポータサウンドをお買い上げいただき、 ありがとうございます。

このガイドブックは、やさしい曲を演奏しながらポータサウンドをマスターできるようにつくりました。ぜひ、ご一読ください。  
また、あとで演奏を楽しんでいるときに、もしアレ? と思うようなことがあったら、もう1度読みなおしてください。



	ページ
ポータサウンド早わかり	1
<b>PART I 音色</b>	
オーケストラ音色をだしてみよう	4
オリジナルの音づくり①—デジタルシンセサイザー	5
「スリラー」のベースサウンドをつくろう	6
音づくりのコツ特集	7
オリジナルの音づくり②—オーケストラ・プラス・デジタルシンセサイザー	9
ハードウェアガイドダンス〈デジタルシンセサイザー解説〉	10
<b>PART II リズム</b>	
リズムを鳴らそう	12
カスタムドラマーでリズムに味つけ	14
鍵盤をドラムにしちやおう	15
<b>PART III オートベースコード(自動伴奏)</b>	
オートベースコードってなんだ? etc.	16
指1本で自動伴奏—シングルフィンガー	18
シングルフィンガーコードのまとめ	20
コード早見表〈シングルフィンガー〉	21
和音を押さえて自動伴奏…フィンガード	22
「いとのエリー」弾き語り…マニュアルベース	24
カスタムドラマー/オートベースコード・バリエーション&ボイス 曲別おススメセッティング	25
コード早見表〈フィンガードコード〉	26
<b>ポータサウンド総仕上げ</b>	
渚モデラートにトライ!	28
<b>楽譜の読みかた</b>	30
<b>Let's Play</b>	
●碧い瞳のエリス	31
●1グラムの幸福	32
●ワン・モア・ナイト	33
●オーメンズ・オブ・ラブ	34
<b>故障と誤りやすい現象</b>	36
<b>仕様</b>	37
<b>ポータサウンド一覧</b>	38

## ポータサウンドをながくお楽しみいただくために………注意!

### こんな所には置かないでください

- 暖房器具のそばや日中の車内など、極端に温度が高い場所。
- 湿気の多い場所。

### 無理な力を加えないでください

- 落としたり、上に座ったりしないでください。
- ボタンやスイッチなどに、無理な力を加えないでください。

### 使用後は

- 必ずパワースイッチを切ってください。
- 長い間使わないときは電池をぬいておいてください。
- 電源アダプターを使用している場合も、使わないときはコンセントからぬいてください。

### お手入れは

- 柔らかい布でカラ拭きをしてください。
- 汚れがひどいときは、少し水で湿らせた布で拭いてください。
- アルコールやシンナー類は、絶対に使わないでください。
- 塩ビ系のものを長時間置くと、くっつく場合があるので注意。

# ポータサウンド早わかり

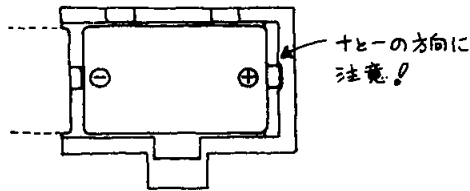
まずは、ポータサウンドのアウトラインをつかもう。くわしくは( )のページをみてください。

## 1. まずは電源のしたく

電池? それともコンセント?

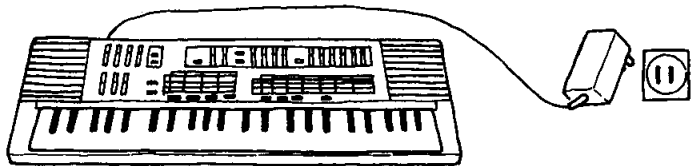
### ●電池を使うなら…

ポータサウンドをウラ返してケースのフタをあけ、単2乾電池を6コ入れる。



### ●コンセントを使うなら…

コンセントから電源をとるには、別売のアダプター〔PA-1〕が必要。このアダプターを背面の付属端子〔DC9-12V IN〕につなげば、OK。



〔PA-1〕以外は使わないでください。〔PA-1〕は別売付属品 ¥1,000

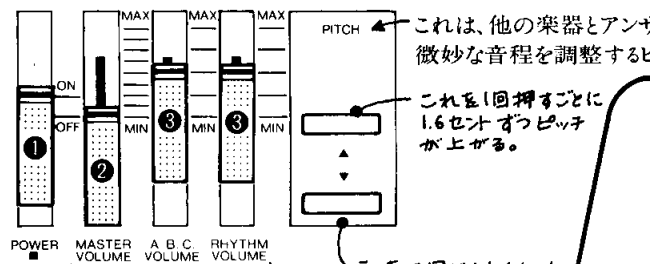
## 2. とにかく音をだそう

① パワーON。

② マスターボリュームを上げる。

これで鍵盤を押せば、コズミックの音ができるはず。

③ リズムボリュームとA. B. C. ボリュームをまん中にしてお

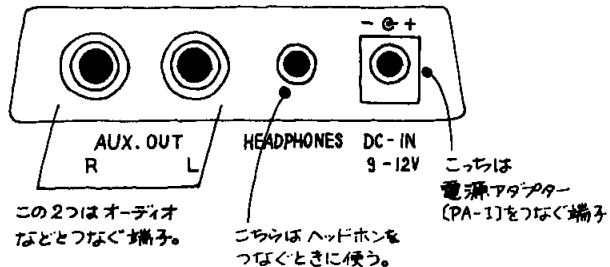


こっちは同じく1.6セントずつピッチが下がる。  
レバーを上げるほど大きな音に。

ONするとこのランプが点灯。  
もし、暗くなっていたら注意。  
これは電池がなくなりそうの  
シルシ。6コとも新しい電池と  
交換してください。

★もとに戻すには、  
両方いっぺんに  
押すか、電源を  
切る。  
(A<sub>3</sub>=440Hz)

付属端子



この2つはオーディオ  
などとつなぐ端子。

こっちはヘッドホンをつ  
なぐときに使う。

### ●ヘッドホンを使うときは

ヘッドホンを使えば、夜中の気まぐれプレイもヒミツ練習も自由。付属端子の〔HEADPHONES〕にヘッドホンのプラグを差し込んで、ドーン。

### ●絶対おススメ。大きな音で迫力プレイ

オーディオ接続コードで〔AUX. OUT〕からオーディオなどのLINE INにつなぐと、リズムのライブ感、オーケストラの生々しさ! 演奏の迫力倍増、もっとオモシロクなるゾ。

こ  
(  
シング  
らFの  
に。く

### 3. リズムを鳴らそう (12~13ページ)

- ①リズムを選ぶ。
- ②スタートボタンを押す。とりあえずリズムが鳴りだす。
- ③そこでテンポを調節。

PCM RHYTHM

①	POPS	DISCO	16 BEAT	ROCK N' ROLL
	COUNTRY	LATIN	BOSSANOVA	REGGAE
	BIG BAND	SLOW ROCK	MARCH/POLKA	WALTZ

②

FILL IN    SYNCHRO START    START    STOP

③

TEMPO

★もとに戻すには両方いっぺんに押すか電源を切る。(J=120)

こちらを押せばテンポが速くなる。

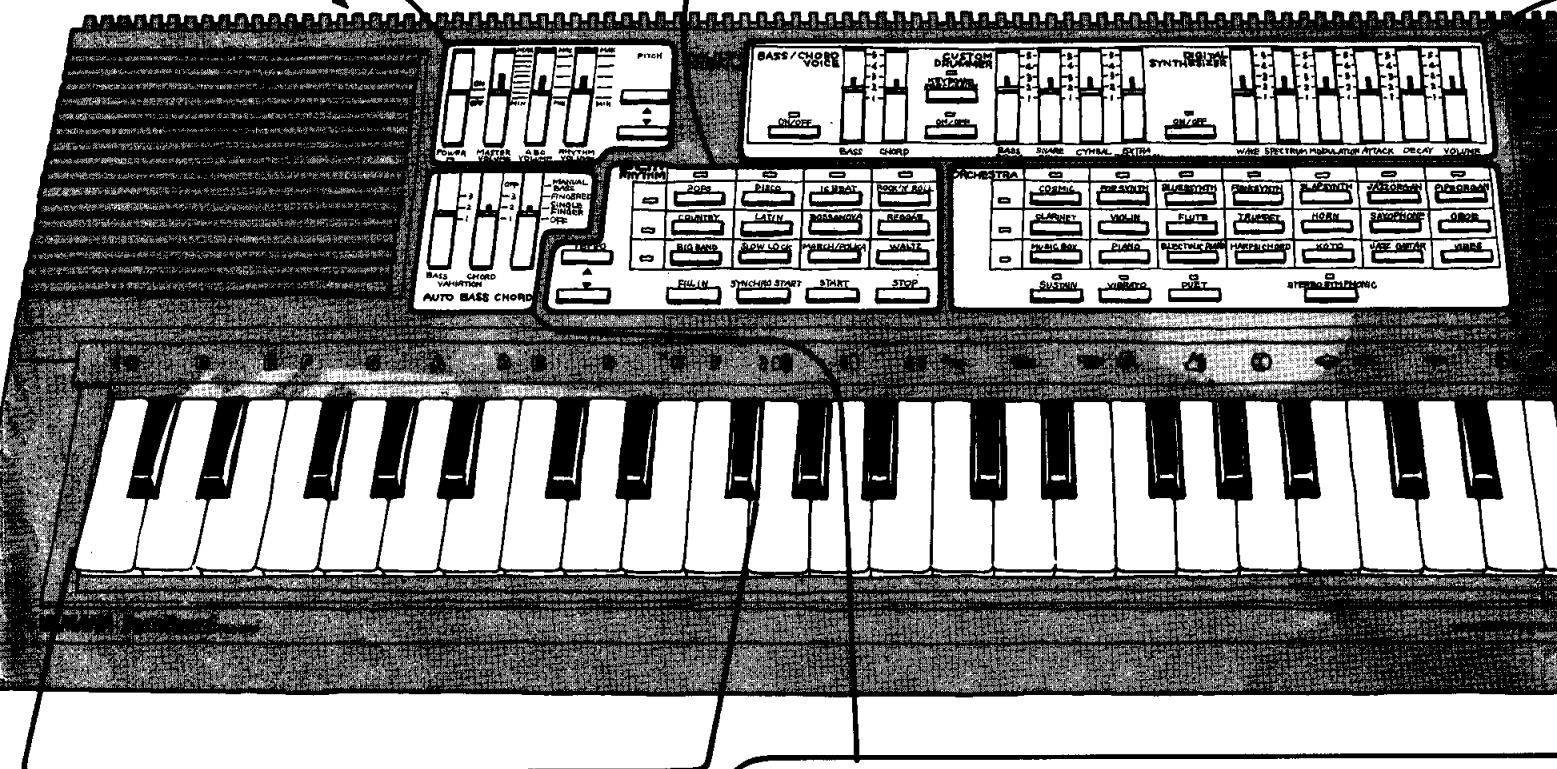
こちらを押せばテンポが遅くなる。

これはリズムスタンバイのボタンを押しただけではリズムは鳴らずに、テンポランプが点滅。そこで下のオートベースコード用鍵盤を押してみると…。ボラ！リズムが鳴りだした。

このボタンを押すと、その小節だけリズムがカッコよくなる。

このボタンを押せばリズムが止まる。

付属端子はこのあたり



### ここが自動伴奏をする鍵盤だ！(オートベースコード用鍵盤)

シングルフィンガーのときは、たとえばCコードだったらCの鍵盤、FコードだったらFの鍵盤を1コだけ押さえればよい。鍵盤のところにアルファベットを参考にしては16~27ページをみてネ。

### 4. 自動伴奏にトライ! (16~27ページ)

- ①いちばん右のレバーをシングルフィンガーにセット。
- リズムを鳴らして下のオートベースコード用鍵盤を押さえてみると…ホラ、伴奏が鳴りだした！リズムをシンクロスタートして、オートベースコード用鍵盤を押せば伴奏とリズムがいっしょにスタート！
- このレバーを動かすとコードのパターンが変わるヨ！
- ニつちのレバーだとベースのパターンが変わるヨ！

### 3. リズムを鳴らそう (12~13ページ)

- ①リズムを選ぶ。
- ②スタートボタンを押す。とりあえずリズムが鳴り出す。
- ③そこでテンポを調節。

PCM RHYTHM

①	POPS	DISCO	16 BEAT	ROCK 'N' ROLL
	COUNTRY	LATIN	BOSSANOVA	REGGAE
	BIG BAND	SLOW ROCK	MARCH/POLKA	WALTZ

こちらを押せばテンポが速くなる。 TEMPO

こちらでテンポが遅くなる。 ③

★もとに戻すには両方いっぺんに押すか電源を切る。(J=120)

FILL IN SYNCHRO START START STOP

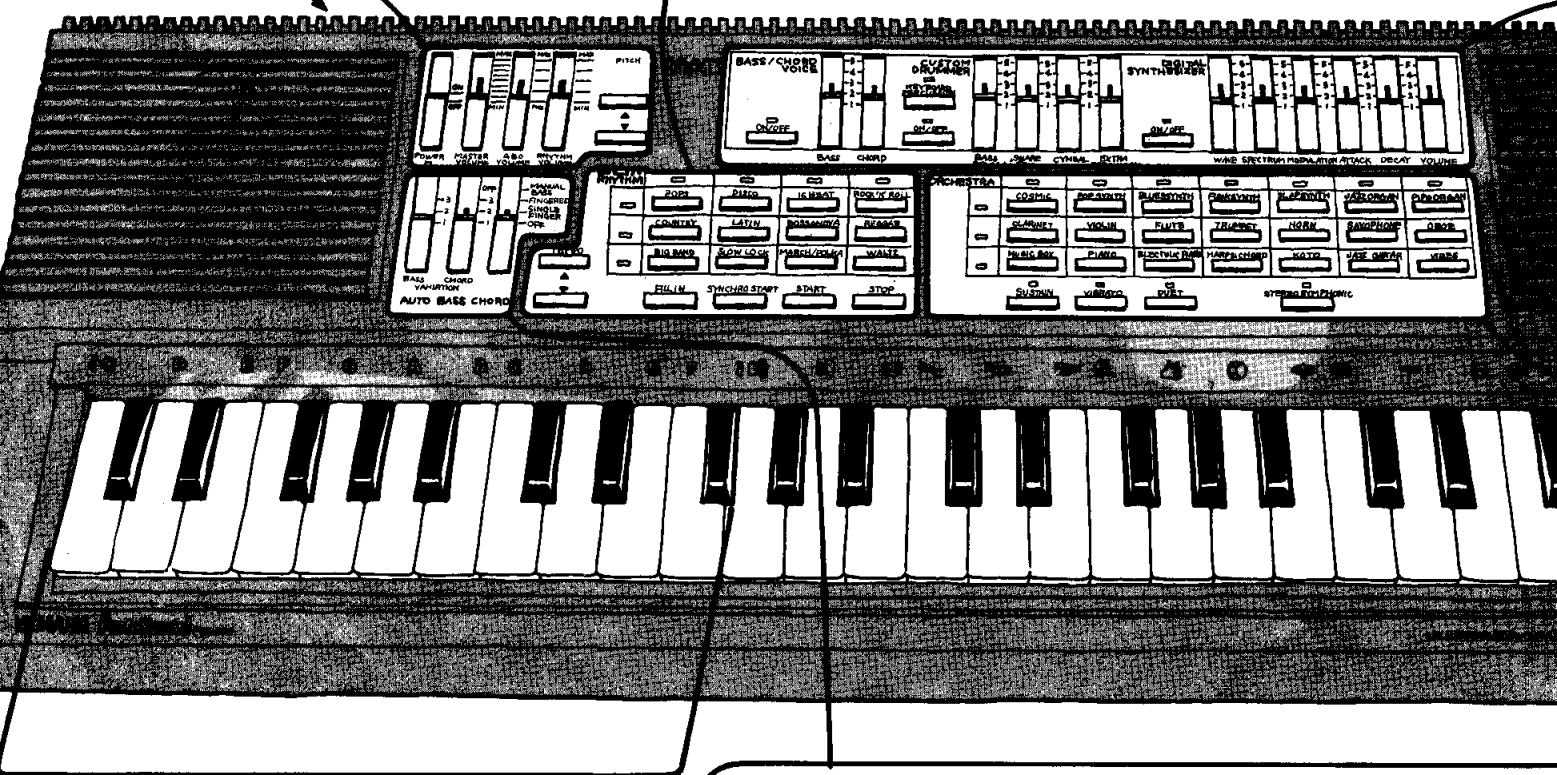
このボタンを押すと、その小節だけリズムがカッコよくなる。

このボタンを押すとリズムが止まる。

これはリズムスタンバイのボタンを押しただけではリズムは鳴らせずに、テンポランプが点滅。そこで下のオートベースコード用鍵盤を押してみると…。ホラ！リズムが鳴り出した。

サンプルするときなど、タッチ。

付属端子はこのあたり



### ④が自動伴奏をする鍵盤だ！ (オートベースコード用鍵盤)

フィンガーのときは、たとえばCコードだったらCの鍵盤、Fコードだった鍵盤を1コだけ押さえればよい。鍵盤のところにアルファベットを参考は16~27ページをみてネ。

### 4. 自動伴奏にトライ! (16~27ページ)

- ①いちばん右のレバーをシングルフィンガーにセット。

リズムを鳴らして下のオートベースコード用鍵盤を押さえてみると…ホラ、伴奏が鳴り出した！リズムをシンクロスタートして、オートベースコード用鍵盤を押せば伴奏とリズムがいっしょにスタート!

このレバーを動かすとコードのパターンが変わるヨ!

ニッチのレバーだとベースのパターンが変わるヨ!

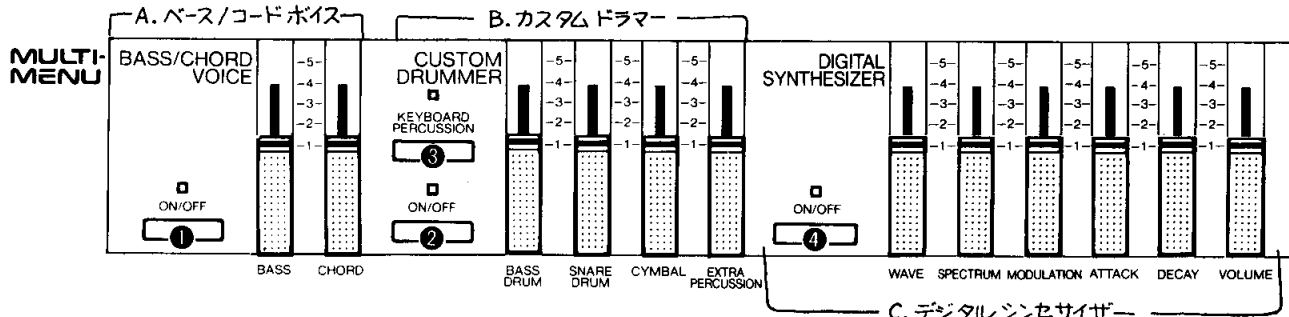
# 6. マルチメニューで自分らしさの味つけを

## A. ベース/コードボイス (18~25ページ)

ここは、オートベースコードの音色を選ぶところ。①のボタンをON。2つのレバーでコードとベースの各音色を選ぶ。

## B. カスタムドラマー (14~15ページ)

ここは、リズムのパターンを変えたいときに使う。②のボタンをON。右4つのレバーで、それぞれの打楽器のリズムパターンを選ぶ。③のボタンを押すと、鍵盤がドラムになっちゃう。



## C. デジタルシンセサイザー (5~11ページ)

ここは、シンセサイザーみたいに音色づくりができるところ。音色づくりには2つの方法があるんだ。

(方法その1)

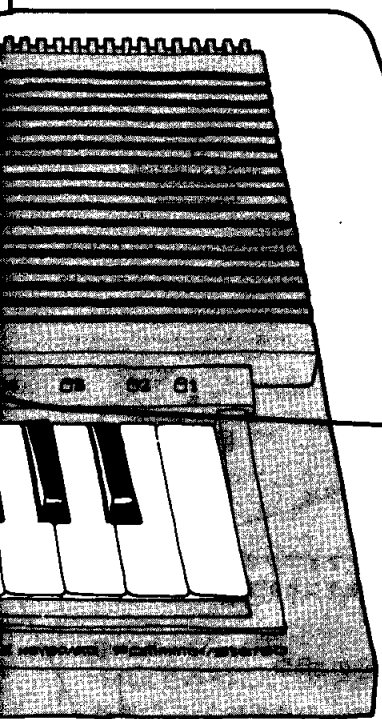
④のボタンをONして鍵盤を押さえてみる。ほら、オーケストラになかった音色がでてくる。そこで、横のレバーをいじってみよう。いろんな音がとびだすぞ! これでつくれる音色は、3,125種類。

(方法その2)

オーケストラ音色を選んだら、こんどは④のボタンをOFFに。

そして、横のレバーをいじってみよう。ホラ、どんどん音が変わっていきだろう? これでつくれる音色は、なんと65,625種類。

スゴイ! 方法その1とその2で68,750種類もできてしまう!



# 5. 音色を選ぼう (4ページ)

## ①メロディー演奏の音色を選ぶ。

好きな音を選んで押す。

ORCHESTRA	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
①	COSMIC	POPSYNTH	BLUESYNTH	FUNKSYNTH	SLAPSYNTH	JAZZ ORGAN	PIPE ORGAN
	CLARINET	VIOLIN	FLUTE	TRUMPET	HORN	SAXOPHONE	OBOE
	MUSIC BOX	PIANO	ELECTRIC PIANO	HARPSICHORD	KOTO	JAZZ GUITAR	VIBES

このボタンを押すと鍵盤から指を離しても音が残って、自然に消えていくようになる。

SUSTAIN

VIBRATO

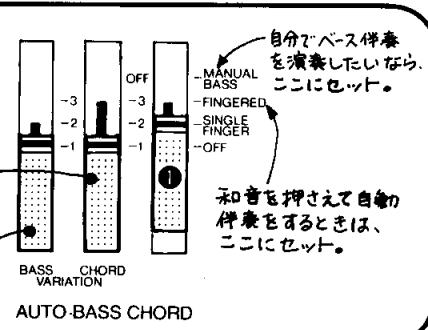
DJET

STEREO SYMPHONIC

これを押すと音がふるえてうるおいのある響きになる。

オートベースコードを使って演奏しているとき、これを押すとメロディーにハーモニーがつく。

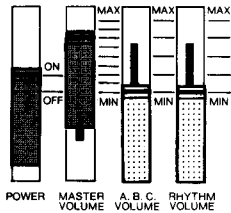
音にうねりをあたえて広がりのある響きにする効果のボタン。パワーONで自動的にONになっている。



# オーケストラ音色をだしてみよう

PSS-560のオーケストラには、21種類の楽器の音がつまっています。さて、ピアニストになる？ それともトランペッター？

## 1 パワースイッチON。マスターボリュームを上げる。



パワースイッチONのときは、いつもコズミックの音になる。

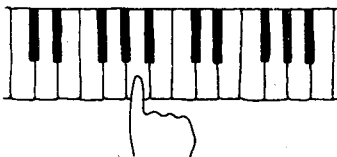
## 2 トーンセクターから好きな音色をひとつ選んでON。

たとえばトランペット……

ORCHESTRA	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
COSMIC	POPSYNTH	BLUESYNTH	FUNKSYNTH	SLAPSYNTH	J/ [
CLARINET	VIOLIN	FLUTE	TRUMPET	HORN	S [
MUSIC BOX	PIANO	ELECTRIC PIANO	HARPSICHORD	KOTO	J/ [

選んだ音色の真上と真横のランプが点灯。

## 3 鍵盤を押さえてみよう。



トーンセクターのボタンを押して変えて、いろいろな音色を聴いてみよう。

- ★同時に9音までの和音演奏ができます(オートベースコード、デュエットを使用していないとき)。
- ★いずれかのトーンセクターをONすると、前に選んでいた音色は自動的にキャンセルされます。
- ★2つ以上の音色を組合せて使うことはできません。
- ★鍵盤を押さえたまま違う音色のトーンセクターのボタンを押すと、鳴っていた音が途切れます。もういちど鍵盤を押さなおしてください。

## 4 効果を加えてみよう。

### ● サステイン



このボタンを押すと、鍵盤から指を離れたあとも余韻が残って、自然に消えていくようになるよ。ピアノやバイブなどに効果的。

### ● ビブラート



このボタンを押すと、音がこきざみにふるえて、うるおいのある響きになる。バイオリンなど、持続音におススメ。

### ● デュエット



デュエットは、その名の通り2人で弾いているみたいにハーモニーがつくボタン。このハーモニーの音がコードによって選ばれるしくみなので、デュエットはオートベースコード使用のときだけ使えます。

### ● ステレオシンフォニック



音にうねりを与えて広がりのある響きにするボタン。

★サステイン、ビブラート、ステレオシンフォニック、デュエットはデジタルシンセサイザーでつくった音にも使うことができます。

ここが音色の担当

オーケストラは21音色。下の4つのボタンが効果。

オリジナルの音づくりができるデジタルシンセサイザー



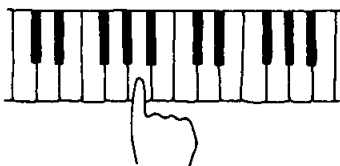
# オリジナルの音づくり①……デジタルシンセサイザー

デジタルシンセサイザーは、自分のイメージで音づくりができる。音の波形や音量の変化のしかたを選び、その組合せてなんと! 68,750通りもの音色がつけられるのだ。

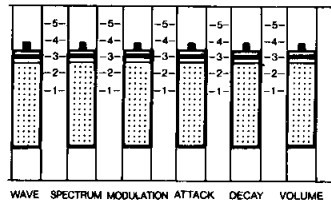
## 1 デジタルシンセサイザーのON/OFFスイッチをON。



## 2 鍵盤を押さえてみよう。



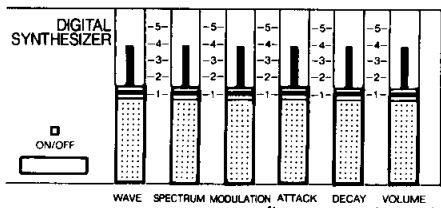
## 3 デジタルシンセサイザーの各レバーを動かして音色をつくろう。



鍵盤を押さえて音を聴きながら、イメージにあった音色をさがそう。

操作はこれだけ。レバーを動かすのに特別な順番はない。自分の耳で確かめながらイメージする音ができるまで、レバーを上げたり下げたりガンバッテ!

★6~8ページには、こんなふうにしたらどお? という提案的な操作手順と音づくりのコツをまとめてみました。参考にしてください。



デジタルシンセサイザーのレバーの名前と、それぞれの役目を簡単にいえば次のとおり。ただし、本当はこんなに単純ではない。そのところは、レバーをいろいろいじってみるうちに、なんとなくわかると思う。もっと、理論的にちゃんとしたことが知りたい人は10~11ページを読んでみてください。

こちらの3つが音色のイメージを決めるレバー。

### ●ウェーブ

つくる音色のモトになるものを選ぶ。  
料理でいえば、材料選び。

### ●スペクトラム

音の高さ(音域)と音色を選ぶ。  
ウェーブで選んだ材料をどう仕上げるかという、料理でいえばトマト味かしょうゆ味かというような大事な役をはたす。

### ●モジュレーション

レバーを上げるほど音が明るく、かたくなる。  
これを料理にたとえた場合は塩かげん。レバーを上げるとピリっとし、下げたときはマイルド。

この2つは鍵盤を押したときから離すまでの音色と音量の変化を設定する。

### ●アタック

鍵盤を押したときの音のでかたを選ぶ。大きく分けて、だんだん音が大きくなるタイプとすぐに本来の音がでるタイプがある。  
たとえば、白に入れたウイスキーボンボンに割れてその味がでるまで少し時間がかかるが、ふつうのアメ玉は初めから同じ味。この2つの違いみたいなもの。

### ●ディケイ

鍵盤を押した瞬間はアタックで選ぶが、そのあと鍵盤を押しつづけていると音がどうなるかを選ぶのがディケイ。だんだん音が小さくなって消えるタイプと、ずーっと音がつづくタイプがある。いわば、だんだんとけてなくなるアメ玉と、ガムの違い。

### ●ボリューム

これは単純にボリューム。デジタルシンセサイザーでつくった音のみの音量を調節する。

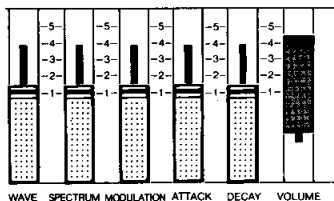
# 「スリラー」のベースサウンドをつくろう

なるべく早くイメージする音にたどりつくためのちょっとしたコツがあるので、実際にあの「スリラー」のベースの音をつくりながら紹介しよう。

デジタルシンセサイザーON! レバーは、全部1にしてスタート。

## 1 右のはじのボリュームを4にセット。

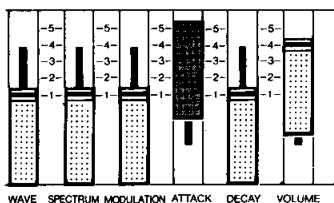
これはデジタルシンセサイザーの音だけの音量調節をするレバー。



●まずアタックとディケイで鍵盤を押さえたときから離すまでの音のでかたを決める。

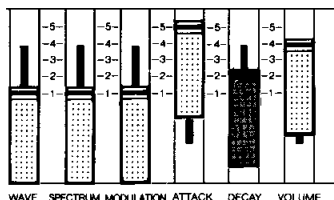
## 2 アタックを5にセット。

これは鍵盤を押さえて音が鳴りはじめるときの感じを選ぶレバー。1がいちばん出だしがにぶくてフワッとした感じ。レバーを上げるほど強くなる。ここでは、ベースの弦をはじくイメージで5に。



## 3 ディケイを2にセット。

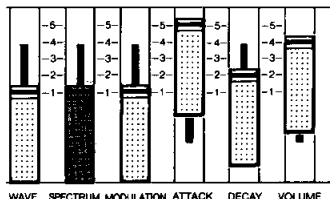
これは鍵盤を押している間、音がどんなふうに変わっていくかを選ぶレバー。1・2は鍵盤を押している間、音が鳴り続ける持続音タイプ。3・4・5はだんだん音が消えていく減衰音タイプで、5がいちばん早く音が消える。(普通この段階では、どちらのタイプか選ぶぐらいで最後に音を聴きながら決定するといい。)



●それではウエーブ、スペクトラム、モジュレーションのレバーで音色をつくろう。

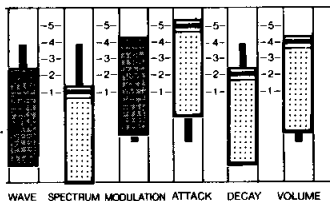
## 4 スペクトラムを1にセット。

これは音の高さを調節するレバー。レバーを上げていくと高い音域の音になり、響きも変わっていく。ベースをつくるには、1が最適。



## 5 ウエーブとモジュレーションで音さがし。

ウエーブを1にして、音をだしながらモジュレーションを1から5まで順番に聴いていく。つぎにウエーブを2にして同じくモジュレーションを変えていく…こうやってイメージする音色をさがすといいいんじゃないかな。ここでは、ウエーブ2、モジュレーション4がよさそうだ。



これにて「スリラー」のベースができあがり。では、下のフレーズをレッツプレイ!

## スリラー

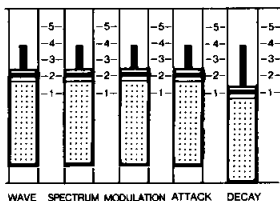
Music by R. Temperton

# 音づくりのコツ特集

デジタルシンセサイザーでつくれる音色のサンプルと、音色をつくるときのちょっとしたコツをまとめました。オリジナルの音づくりの参考に…。

## No. 1

### ソフトホルン

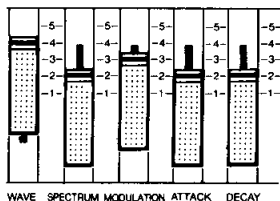


#### \*NOTE\*

ブラス系の音色をつくるときのキメ手は、スペクトラム2とウエーブ2のコンビ。ここでは、ホルンのやわらかい雰囲気を出すためにモジュレーションを2にした。また、アタックも2ぐらいに音の立ち上がりを遅くしたほうが、吹くときのちょっと息をためる感じがでる。もし、パンパカパーンというたぐいのブラスにするなら、モジュレーションもアタックも4ぐらいまでアップするといい。

## No. 2

### チェロ

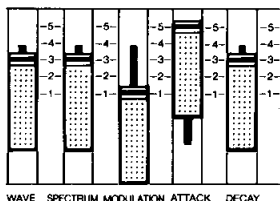


#### \*NOTE\*

これも1と同じくスペクトラムが2。ストリングス系とブラス系というのは、音にちょっと似たところがあるんだ。ブラスにくらべると、ストリングスって明るくてきびやかなので、モジュレーションは3。そして、アタック2とディケイ2、さらにウエーブ4を組合せたら弦をこすっている感じがでた。

## No. 3

### ジャズギター

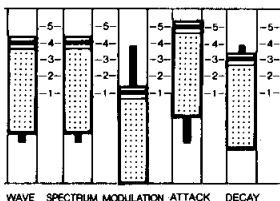


#### \*NOTE\*

オーケストラにもジャズギターの音色があるが、ここでつくったジャズギターはもってネアカの音。こういうギターや次のピアノのような弾いた瞬間の音がいちばん強くてだんだん消えていく音色には、アタック5とディケイ3のコンビがおススメ。

## No. 4

### パイプ&ピアノ

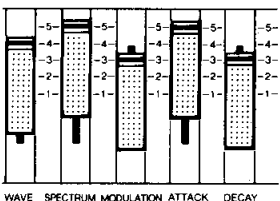


#### \*NOTE\*

3とほとんど同じセッティングだが、スペクトラムを4に上げると音色が金属的な感じになるという例。ふつうのピアノ音色とはかなり違う、シンセならではの音。ピアノとパイプのあいこのこってイメージだ。ここからウエーブを1、スペクトラムを3にするといわゆるピアノ音色に早変わり。

## No. 5

### ベル

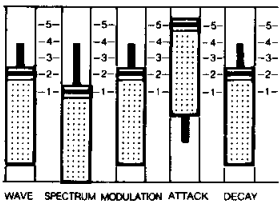


#### \*NOTE\*

この音色のキメ手は、なんといってもスペクトラムを5にしたことだ。ここにセットすると、いままでと響きはかなり変わった感じになる。音程感がニブい、いいかえれば、ドの音はドなんだけどなんだか違う音もまじっているみたいだがという、ちょっとオモシロい音になる。チャイムとか鐘の音って、そんな感じがするだろう？

## No. 6

### ウッドベース

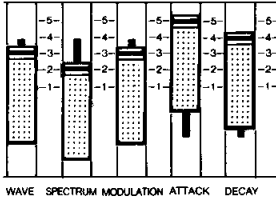


#### \*NOTE\*

6ページでつくった「スリラー」のベースとほとんど同じセッティングだが、ウッド独特のやわらかな感じが、モジュレーションを2まで下げることよくでる。(この音をオートベースコードのベースとして鳴らしたいときは、スペクトラムを2にあげること。)

# No. 7

## シンセピアノ

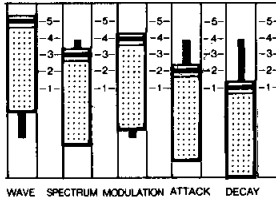


### \*NOTE\*

響きそのものは確かにピアノなんだけど、鍵盤を押したときコツンコツンと鳴るシンセらしい音。アタック4とディケイ5の組合せが、コツンコツンさせるのだ。

# No. 8

## ハーモニカ

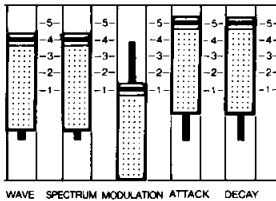


### \*NOTE\*

サクソとかハーモニカなどリード楽器の音をつくるときには、ウェーブ5とスペクトラム3の組合せがいいようだ。そして、1のホルンと同じく息を吹きこむ、ちょっとモタッとした感じをアタック2でだす。この音は、高い音域だとハーモニカ、低めになるとアコーディオンにも似ているよ。ハーモニカ的に使うときは、ステレオシンフォニックをOFFにしたほうが雰囲気。

# No. 9

## グロッケン

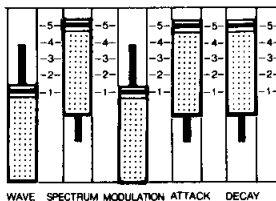


### \*NOTE\*

NO. 9・10・11は3つとも、アタックとディケイに5を選んでいる。つまり、音の出だしが強くすぐに減衰する打楽器のような音をつくるには、この組合せが向いているんだ。グロッケン、鉄琴の仲間だから金属的な音。そこで、スペクトラムとウェーブを4にする。この音は高い音域で演奏してほしい。

# No. 10

## マリンバ

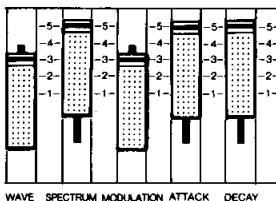


### \*NOTE\*

9に対して、10のマリンバは木琴の仲間だからやわらかめにするわけだけけど、ここではシンセっぽいマリンバというイメージでスペクトラムを5にした。これは、低めの音域で演奏したほうが雰囲気。

# No. 11

## スチールドラム




### \*NOTE\*

10のマリンバを金属っぽくすると、このスチールドラムになる。スペクトラム5は、そもそも金属的になりやすいんだけど、NO. 10ではウェーブもモジュレーションも1におさえているから素朴なマルい音になったワケ。また、NO.5のときのような音程感のニブさをNO.10・11では、さほど感じないのはディケイを5にしたために響いている時間が短いからだ。

### ●オリジナルサウンドのチャートをつくらう。

せっかくだが音ができたのに、忘れてしまっはもったいない。そこで、セットしたレバーはメモっておこう!

Name	ソフトホルン
ウェーブ	2
スペクトラム	2
モジュレーション	2
アタック	2
ディケイ	7
デジタルシンセ	ON <input checked="" type="checkbox"/>
	OFF <input type="checkbox"/>



# オリジナルの音づくり② ……オーケストラ・プラス・デジタルシンセサイザー

もうひとつの音づくりの方法。それは、オーケストラ音色をもとにしてつくる方法だ。イメージにあわせてオーケストラ音色にちょっと手直しを加えたり、デジタルシンセサイザーだけではできなかった新しい音色をつくりだしたり…音色バラエティーはもう無限に近い!

●ホルンをコツンという打楽器っぽい音にしてしまおう。

**1** デジタルシンセサイザーのON/OFFスイッチはOFFにする。

DIGITAL  
SYNTHESIZER

これをOFFにするのが、この②の方法のミソ。

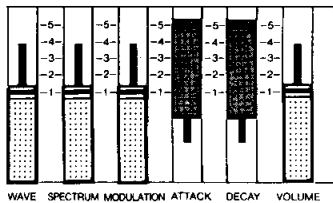


**2** オーケストラのトーンセクターで、ホルンを選び、そのボタンを押す。

ORCHESTRA	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	COSMIC	POPSYNTH	BLUESYNTH	FUNKSYNTH	SLAPSYNTH	JA
	CLARINET	VIOLIN	FLUTE	TRUMPET	HORN	SA
	MUSIC BOX	PIANO	ELECTRIC PIANO	HARPSICHORD	KOTO	JA

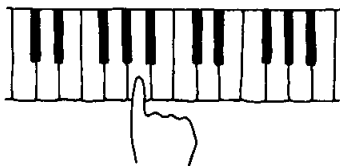
**3** デジタルシンセサイザーのアタックとディケイのレバーを5にする。

アタックとディケイ以外のレバーはさわらない。



オーケストラのホルンから、レバーを動かしたアタックとディケイの部分だけ変わる。もし、はじめから5になっていたら、いちどレバーを下げてから5にセットしなないと、変わらない。

**4** 鍵盤を押さえてみよう。



はじかれているみたいなホルンサウンドのできあがり。

こんなふうにあたックとディケイを変えるだけで、出だしの弱い音を強くしたり、反対に出だしが強くてだんだん小さくなるピアノのような音を出だしがやわらかくてのびる感じにすることができる(両方のレバーを1に)。

★減す音のなかのミュージックボックス、ピアノ、琴、ジャズギター、パイプの5つの音色は持続音にすることができません。

★もとのオーケストラ音色にもどしたいときは…

①そのトーンセクターのボタンをもういちど押す。

②動かしたレバーを3にする。

このどっちでもOK! ②のほうは、たとえばいろいろなレバーを動かしたあとでウェーブだけはもとのウェーブを使ったほうがよかったなあというときや、アタックを変えるつもりじゃなかったのにまちがえていじっちゃったというときに便利。

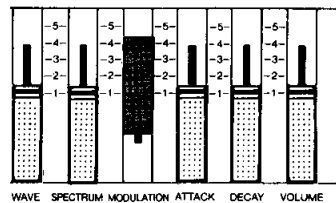
●トランペットの音をもっとハデにしてみよう。

**1** オーケストラのトーンセクターでトランペットを選び、そのボタンを押す。

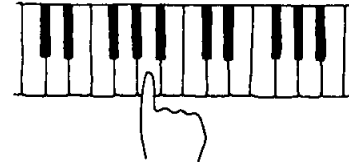
ORCHESTRA	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	COSMIC	POPSYNTH	BLUESYNTH	FUNKSYNTH	SLAPSYNTH	JA
	CLARINET	VIOLIN	FLUTE	TRUMPET	HORN	SA
	MUSIC BOX	PIANO	ELECTRIC PIANO	HARPSICHORD	KOTO	JA

**2** モジュレーションのレバーを4に上げる。

もし、4になっていたらいちどレバーを動かして4にセットしなおす。



**3** 鍵盤を押さえてみよう。



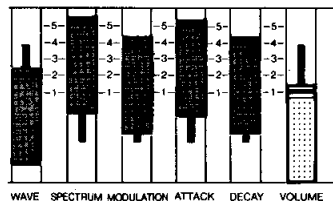
このように、音色そのものはあまり変えないで音を明るくしたいとか、ソフトにしたいというときは、モジュレーションのレバーだけを動かす。

●フルートの音色から、意外な音が…

**1** オーケストラのトーンセクターでフルートを選び、そのボタンを押す。

ORCHESTRA	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	COSMIC	POPSYNTH	BLUESYNTH	FUNKSYNTH	SLAPSYNTH	JA
	CLARINET	VIOLIN	FLUTE	TRUMPET	HORN	SA
	MUSIC BOX	PIANO	ELECTRIC PIANO	HARPSICHORD	KOTO	JA

**2** デジタルシンセサイザーのレバーをセット。



フルートがシンセピアノ・サウンドに変身! こんなふうには、まったく違う音色につくりかえてしまいたいときはウェーブやスペクトラムを含めてレバーを動かすといい。

フルートがピアノっぽくなるなんて、意外性があるオモシロイだろう? いろいろためして、イイ音色を発見しよう。それから、できた音色はわすれないようにメモっておくといいよ。

# ハードウェアガイド デジタルシンセサイザー解説

デジタルシンセサイザーっていったいどんなしくみなんだ? もっとくわしく知りたい! という方のために。ムズカシー話はゴメンだという人は、ドーン気にせずムシしてください。

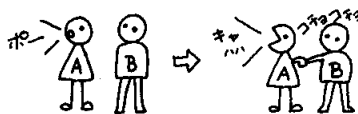
## FM音源ってナニ?

デジタルシンセサイザーを理解するために、まずPSS-560の音がでるしくみ、つまりFM音源のハナシから入ろう。

### \*FM音源の2つのオペレーター\*

FM音源というのは、2つのモノが組合わさって1つの音色をつくりだしています。(このモノを、オペレーターという。)それでは、もう少しわかりやすくするために、人にたとえて説明しよう。ここに、単純な性格のA子と、A子にすぐちょっかいをだす無口なB太がいる。A子は単純な性格でひとりではただボーとしか歌えないけど、B太がだすちょっかいにとても素直に反応するんだ。B太がなぐれば「キヤー」と叫び、コチョコチョとやれば「ウハハ」と笑う。そしてB太は声をださない。FM音源のしくみってコレにとってもよく似ているんだ。

つまり、自分だけでは単調な音しかだせないAオペレーターは、音をだすのが専門。反対に自分は音をだせないBオペレーターは、Aオペレーターの音の調子を変化させるのが、専門(これを専門用語では、変調という)。このように役割がしっかり分担された2つのオペレーターが組合わさって、1つの音色をつくりだしているってワケなんだ。

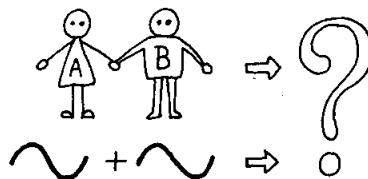
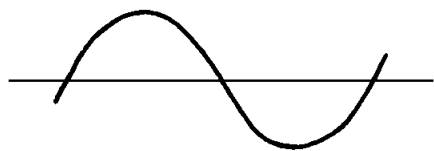


### \*波形のハナシ\*

音に波のあることは知っているかな? この波は音によっていろいろなカタチをしている。これを波形というんだけど、この波のカタチが音色をつくっているんだ。そして、FM音源の2つのオペレーターもそれぞれ波形を持っている。ところがこのオペレーターの波形は、どんな音色のときでも、2つとも「サイン波」と呼ばれるツルリンとした形の波(図1)の仲間であってきているんだ。

「あれ? それじゃなんでみんな同じような音にならないの?」と思うだろう? ここが2つのオペレーターが1組になって音をだしているヒミツ。サイン波とサイン波を組合せてできる音は必ずしもサイン波にならないんだ。なぜか? そくて、大切な役目をしているのが周波数だ。

(図1)これがサイン波という波形だ

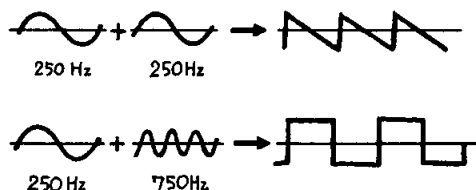
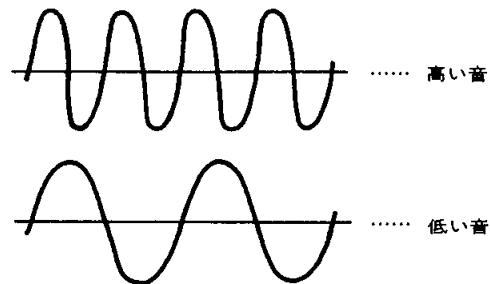


### \*周波数のハナシ\*

まず、周波数という言葉は聞いたことがあると思う。△△Hz(ヘルツ)というやつだ。周波数とは1秒間に音の波が何回やってくるかを表し、この数が多いほど音程は高くなる(図2)。たとえば周波数440Hzのラの音を単純に1オクターブ上げるには倍の880Hzに、もう1オクターブ上げるにはそのまた倍の1,760Hzにすればいい。それじゃ、FM音源にはオペレーターが2つあるのだから、それぞれ違う周波数にしたらどうなるのだろうか? じつは、コレがFM音源の音色づくりのカギなんだ。

さっき、波形のハナシのところでも2つのオペレーターは両方とも同じサイン波の仲間であってきているといったが、このサイン波という音の波はちょっと変わった性質を持っている。違う周波数のサイン波とサイン波を組合せると、カタチの違う波形になるという性質だ。そして、この組合せるサイン波の「周波数の比率」によって、いろいろな波形を生み出すんだ。これを具体的にいうと、音出し専門のAオペレーターも変調専門のBオペレーターも同じ250Hzのとき(A:Bの比率は1:1だね)と、Aオペレーターが250HzでBオペレーターが750Hz(A:B=1:3)のときは、できる波形が違うということなんだ。波形が変わればモチロン音色も変わる。だからこのデジタルシンセサイザーはサイン波しかなくても、プラスとか鐘とかの音色までつくることができるんだ。つまり、FM音源のほんとの原理というのはこういうことなんだ。

(図2)



# それぞれのレバーの役目は？

いよいよ本題に入るが、もちろんデジタルシンセサイザーをON、いちばん右にあるボリュームのレバーはただの音量調節なので、好きなところにセット。

## \*音色を決めるのはウエーブ、スペクトラム、モジュレーションの3つ\*

### ●ウエーブ

このレバーの5つのポジションに、それぞれ1組ずつオペレーターの入っている。波形のハナシでいったように、ここにあるのはみんなサイン波の仲間なんだけど全部が図1のカチをしていないわけではない。音だし専門のAオペレーターはウエーブ5、変調専門のBオペレーターはウエーブ3のとき、ちょっとだけ違うカチをしている。ては、耳で納得するでしょう。

① デジタルシンセサイザーをON、アタックを5にしてその他のレバーを1に。

② 鍵盤を押さえたまま、ウエーブのレバーを1から順に上げていく。

違いがわかるかな？ レバーを1・2・4にしたときは、ほとんどおんなじ音で感じたことと思う。

### ●スペクトラム

これは、さっきFM音源の周波数のハナシででてきた「周波数の比率」を選ぶレバーだ。どんな比率になっているかというのは、表1のとおり。この比率によって音色がどう変わるかは耳に頼るしかないんだけど、レバーを5にしたときだけはちょっと注意。表1をみると、5のところだけが3:5という、BをAで割り切れない数字になっている。こういう比率のときは、ちょっと音程感のニブい音になるんだ。だから、鐘とかチャイムのような音をつくる時にここにするといいワケ。

### ●モジュレーション

これはBオペレーターの「変調の強さ」の調節。A子とB太でいえば、B太がA子をくすぐる強さの調節だ。レバーを上げるほど変調が強くなり、ウエーブのレバーを上げていったときのフィードバックの感じもよくわかる。ためにモジュレーションを3にして、ウエーブのレバーを上げていってみよう。今度は、けっこう違いを感じる事ができたはず。

では、この1・2・4の違いはなんだろう？ そこで、もう1度A子とB太に登場してもらって説明しよう。A子をB太がコチョコチョしていると仮定する。A子は笑いながらうたっているんだ。で、どのB太もみんな同じようにコチョコチョしているんだけど、じつは、A子の笑ってるのを見てB太自身も笑っている。B太は無口だから声はださないけど笑うと身体がゆれてしまう。で、その振動がA子の声に影響するんだ。ウエーブのレバーを上げるほどB太は笑いじょこになっていく。つまり、BオペレーターはAオペレーターの音の調子を変えているんだけど、それが自分にも影響しているってワケなんだ。これを専門用語では、「フィードバック」というんだけど、Bオペレーターの変調が強くないときはあんまり音に影響しない。

(表1)

スペクトラムのレバー	Aオペレーター	Bオペレーター
5	3	5
4	1	7
3	1	3
2	1	1
1	1	0.5

実際に聴いたときの音の差を言葉にすると、まあモジュレーションのレバーを上げるほど音が明るく、カタくなるって感じかな。

## \*アタックとディケイは、音の時間的変化(エンベロープ)を担当\*

音にはいろいろあって、たとえばタイコはドンと鳴ってすぐ消えるだろう？ オルガンは鍵盤を押さえている間中、鳴っている。そして、バイオリンは最初に弦にふれたとき、こすっているとき、それぞれちょっとニュアンスが違う。こんなふうに、音には時間的

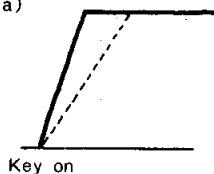
な変化があって、それもひとつの特徴なんだ。こういう時間的な変化をエンベロープといい、アタックとディケイはそれを担当している。

### ●アタック

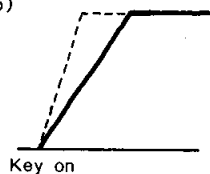
これは、その時間的変化のうち弾きはじめの部分を受け持ち。タイコのようにたたいた瞬間がいちばん強い音なのか、バイオリンのようにはじめはやさしくてだんだん大きくなるのかってこと。でも順番にレバーを上げていくと、鍵盤を押したときの音色も変わるような気がするだろう？ それは、2つのオペレーターにそれぞれ違うスピードが設定されているからなんだ。図3を見てほしい。実線が音をだすAオペレーターの、点線が変調するBオペレーターのスピードを表している。(a)のほうの典型的なタイプがアタック1。Bオペレーターの変調が最高潮に達するまでに時間がかかっているため、はじめのうちはAオペレーターもあまり変化せずに音をだしている。同じようにAオペレーターのスピードのほうの方が速いのが4なんだけど、1ほどBオペレーターとの差がない。

反対にBオペレーターのスピードのほうの方が速い(b)タイプが2・3。このときは、鳴りはじめの音量の変化として感じ、2より3のほうが早く音が大きくなる。そして、5にしたときはAオペレーターとBオペレーターのスピードが同じ。それ以外のどの位置にしたときより、スピードが速い。打楽器なんかにはベストマッチするタイプだ。

(図3) (a)



(b)

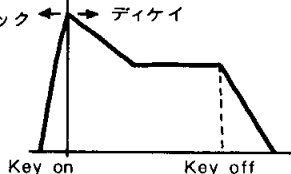


### ●ディケイ

最高潮に達したAオペレーターとBオペレーターをそのあとどうするか、つまり鍵盤から指を離すまでその音量と音色をどう変化させるかがこのディケイの位置によって決まる。そして、このディケイもAオペレーターとBオペレーターそれぞれ別々にセットされているから、レバーの位置によって音色も変化するように感じるんだ。レバーを3・4・5にしたときが、だんだん音が消える減衰音になり、5がいちばん早く音が消える。1と2はずーっと鳴りつづける持続音だが、1のときはいちばん大きな

音になったままつづき、2のときは少しレベルが下がってから音がつづき、という違いがある。

(図4)



# リズムを鳴らそう

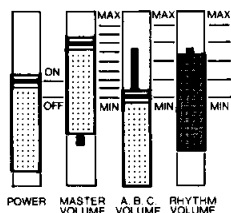
リズム・バラエティーは12種類。リズムをつけて「いとしのエリー」を演奏しよう。

### 1 リズムセクターで、リズムをひとつ選ぶ。

PCM RHYTHM	POPS	DISCO	16 BEAT	ROCK'N ROLL
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	COUNTRY	LATIN	BOSSANOVA	REGGAE
<input type="checkbox"/>	BIG BAND	SLOW ROCK	MARCH/POLKA	WALTZ

ワルツは3拍子、そのほかのリズムは4拍子。「いとしのエリー」はポップスにセット。

### 2 リズムボリュームのレバーをまんやかに。



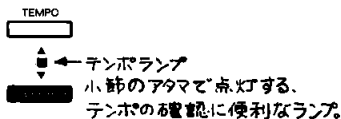
リズムボリュームのレバーが最小(MIN)になっていると、リズムの音は鳴りません。

### 3 リズムのスタートのボタンをON。



ポップスのリズムが鳴りだす。

### 4 テンポコントロールでテンポを調節。



鳴っているリズムの音をききながらメロディーを思いうかべて調節しよう。テンポを速くしたいときは▲、遅くしたいときは▼をON。▲と▼を同時に押すと元のテンポにもどります。(J=120)

「いとしのエリー」は▼を7回ON。

★テンポは31段階に変えられます。パワーをONしたときから、▲を15回押したときがいちばん速く、▼を15回押したときがいちばん遅い。それ以上押してもテンポは変化なし。また、押しつづけるとどんどん変わっていく。(可変幅)J=43~340

### 5 リズムにあわせてメロディーを。

音色はエレピを選んでメロディーを。1・2・3・4と頭のなかでリズムを数えて弾こう。出だしは1・2・3とお休み、4でミファ〜と入ります。

リズムとメロディーの音がバランス悪いな、と思ったらマスターボリュームとリズムボリュームのレバーで調節しよう。

### 6 リズムをストップするには、リズムのストップをON。



なんだか、出だしがキマらない。そこで――。

●うまく出だしをキめるには

### 7 シンクロスタートのボタンをON。



リズムスタンバイの状態。リズムは鳴らないでテンポランプが1拍ごとに点灯し、演奏が始まるのを待っています。

### 8 プレイスタート!

「泣かしたこともー」のしたことーのところ、左手で鍵盤を押さえたときにリズムが鳴りだしたでしょう? つまりシンクロスタートというのはオートベースコード用鍵盤を押さえると同時にリズムを1拍目からスタートさせるボタンなのです。

★シンクロスタートは曲の途中で押せばブレイクとしても使える便利モノ。

●オカズを入れてプレイを華麗に!

### 9 フィルインをチョンと押してみよう。



リズムが鳴っているときフィルインのボタンを押すと、その小節だけがカッコイイリズムになります。曲が盛り上がるころ(俗にサビという)の前とか、フィーリングで使おう! ここでは、5小節めの4拍め、「おれ〜」を弾く前に右手で、フィルインをON。

★フィルインのボタンを押しつづけると変則的なリズムが長く続きます。  
★フィルインのボタンをONしてからリズムをスタートさせると、変則的なリズムで演奏をはじめることができます。



# いとしのエリー

Music & Words by K. Kuwata

Chords: C, Em, C7, F, Dm7, G7, C, D7, F, G7, C

Lyrics:  
 なかしたこともあつめたくしてもな一およりそうきもちがあれば いいのさ おれ  
 にしてみりゃこれが さいごの la-dy エリー my love so sweet

フィルインON ↓

©1979 by BURNING PUBLISHERS. 日本音楽著作権協会(出)許諾第8572012-501号

ここがリズムの担当

リズムのボリューム調節。

ここが基本のリズム。

基本のリズムにオリジナルの味付けをするカスタムドラマー

The image shows a detailed view of the synthesizer's rhythm section. At the top, there are four sections with sliders: POWER, MASTER VOLUME, RND VOLUME, and RHYTHM VOLUME. Below these are various rhythm style buttons: RHYTHM, POP, DISCO, JAZZ, ROCK/ROB, COUNTRY, LATIN, RAGTIME, BEAT, SWING, SOUL, FUNK/POP, WALTZ, and others. There are also buttons for RHYTHM, SYNC/RO START, SPIKE, and STOP. The right side features a large graphic equalizer with sliders for various frequency bands. At the bottom, a portion of a piano keyboard is visible, showing keys from G to B1.

# カスタムドラマーでリズムに味つけ

カスタムドラマーを使うと、もとのリズムから打楽器ごとのパターン変更ができます。25ページに曲別組合せ例をのせたので、参考にしてください。

## 1 リズムセクターでリズムを選び、そのボタンを押す。

PCM RHYTHM	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	POPS	DISCO	16 BEAT	ROCK N ROLL
<input type="checkbox"/>	COUNTRY	LATIN	BOSSANOVA	REGGAE
<input type="checkbox"/>	BIG BAND	SLOW ROCK	MARCH/POLKA	WALTZ

## 2 リズムのスタートを押して、リズムを鳴らす。

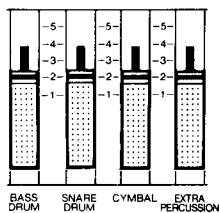


## 3 カスタムドラマーON/OFFスイッチをON。



鳴っているリズムのパターンが変わったはず。

## 4 それぞれのレバーを動かして、ピッタリするパターンに組合せよう。



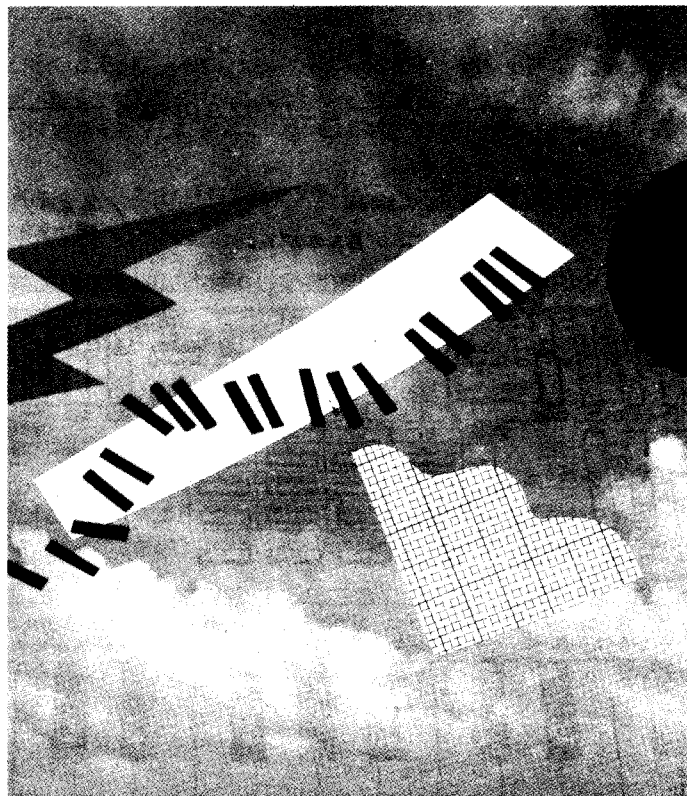
右はじのエキストラパーカッションのレバーを上げると、いままではなかった打楽器やハンドクラップ(拍手)の音が加わってニギヤカになる。

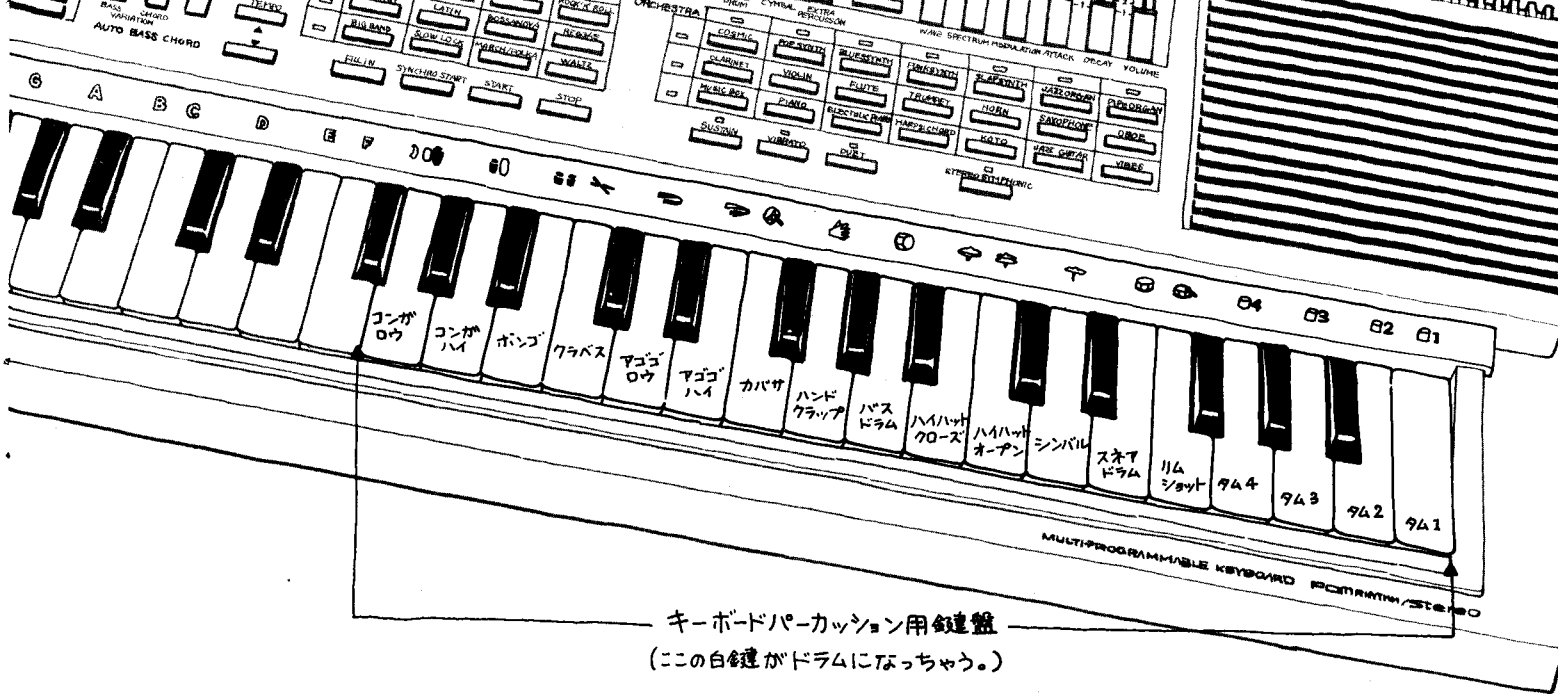
## 5 気に入ったパターンができたなら、いちどリズムをストップ。



★たとえば、同じ曲のなかで途中からリズムを少し変えたいなあというときは、あらかじめレバーをセットしてカスタムドラマーをOFFにしておけば、演奏中にカスタムドラマーをONするだけでリズムを変えることができます。

★カスタムドラマーのレバーには、打楽器の名前が書いてありますが、リズムによってはもともとその打楽器を使っていないものもあり、そういう場合はその変わりになっている打楽器のパターンが変わります。





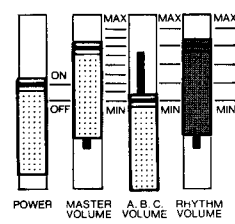
キーボードパーカッション用鍵盤  
(この白鍵がドラムになっちゃう。)

## 鍵盤をドラムにしちゃおう

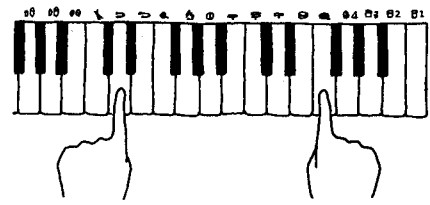
**1** カスタムドラマーのキーボードパーカッションのボタンをON。



**2** リズムボリュームを上げる。

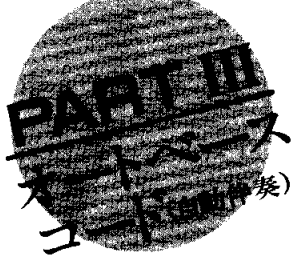


**3** キーボードパーカッション用鍵盤をたたこう。



シーラ・Eふうでも、アフリカ原住民ふうでもお好きなよーに。

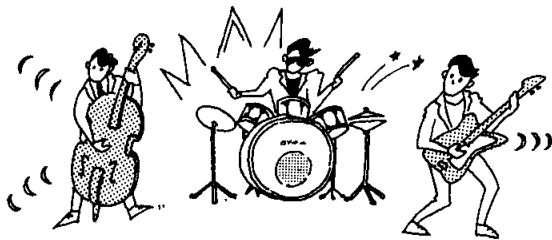
- ★キーボードパーカッションをONしているときは、キーボードパーカッション用鍵盤部の黒鍵から音はでません。
- ★キーボードパーカッション使用時に、オートベースコードを使うとベース、コードに合わせて、自分でリズムをたたくことができます。
- ★リズムボリュームが最小の位置にあると、キーボードパーカッションの音はでません。



さて、こんどはもうすこしカッコよくコードとベースの伴奏をつけて「いとしのエリー」を演奏しよう。リクツはいいから早く弾きたいという方は、右のページから読んでください。

## オートベースコードってなんだ？

- 1** メロディーに伴奏をつけると、音楽らしくなるネ。その伴奏は「リズム」「コード」「ベース」が基本。本物のバンドだと3人でやっているのだけど、これをみんなまとめてメンドウみちやうのがオートリズム & オートベースコード。



- 2** まず、最初を選ぶのがリズム。音楽のスタイルによってボサノバとかスイングとかの種類があるんだけど、それをリズムセクターのボタンで選ぶ。弾きたい曲をよーく聴いていちばん似てるのを選びよう。



- 3** さて、残るベースとコードは？ というとオートベースコードにおまかせ。その名のとおり「自動的にベースとコード」を奏でてくれる。しかもリズムにのって。つまり、なんのコードかの指示さえすれば、3人分の伴奏を受け持ってくれるワケ。だから、あとはメロディーを弾くだけでワンマンバンドのできあがり。

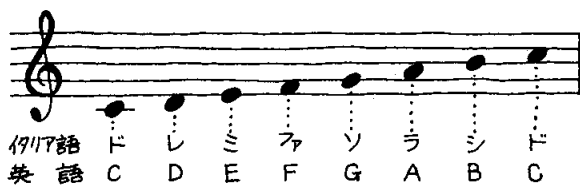


- 4** それではどうやってなんのコードか指示するかというと…五線譜の上に書いてあるCとかFmとかのアルファベット、これがコード。つまりコードの種類に名前がついてあるワケ。ギターを少しカジったことのある人なら、もうおなじみのハズ。これをたよりにすればOK!

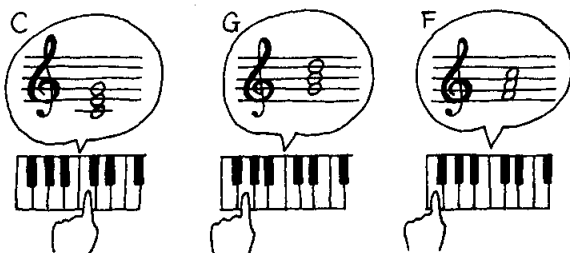


## なぜコードはアルファベットなんだろう？

- 1** ドレミファソラシって何語か知ってる？ じつはイタリア語デス。これを英語ではCDEFGABというのだ。コードはこの英語読みを使って和音を記号にしたもの。たとえばドミソはドを代表させてCコードというように。そこで、まずはこの英語読みをマスター。

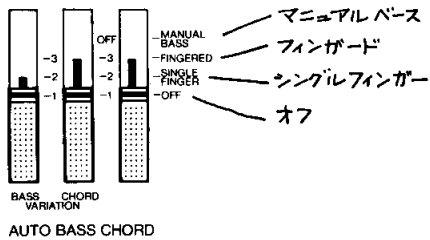


- 2** Cコードはドミソのこととする、あとのDEFGABはどんな和音でしよー？というわけで、とりあえず基本コードのFとGをおぼえよう。ただしオートベースコードには、この和音を全部おぼえなくてもすむシングルフィンガーというイイ方法もある。



## オートベースコードには3種類ある

オートベースコードの3つのレバーのうち、いちばん右のオートベースコードセレクターには4つのポジションがある。下からオフ、シングルフィンガー、フィンガード、マニュアルベースとなっていて、これでどの方法で演奏するかを選ぶのだ。オフはもちろんオートベースコードを使わないで演奏したいとき。あとの3つは、次のとおり。



### ●シングルフィンガー

指1本で自動伴奏ができる、いちばんカンタンなオートベースコード。メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスの4種類のコードを自動伴奏できる。

### ●フィンガード

和音を押さえて自動伴奏をする。コード演奏になれている人や、シングルフィンガーでだせる4つだけでは演奏できないちょっと高度な曲を弾きたいときに、ここにセット。

### ●マニュアルベース

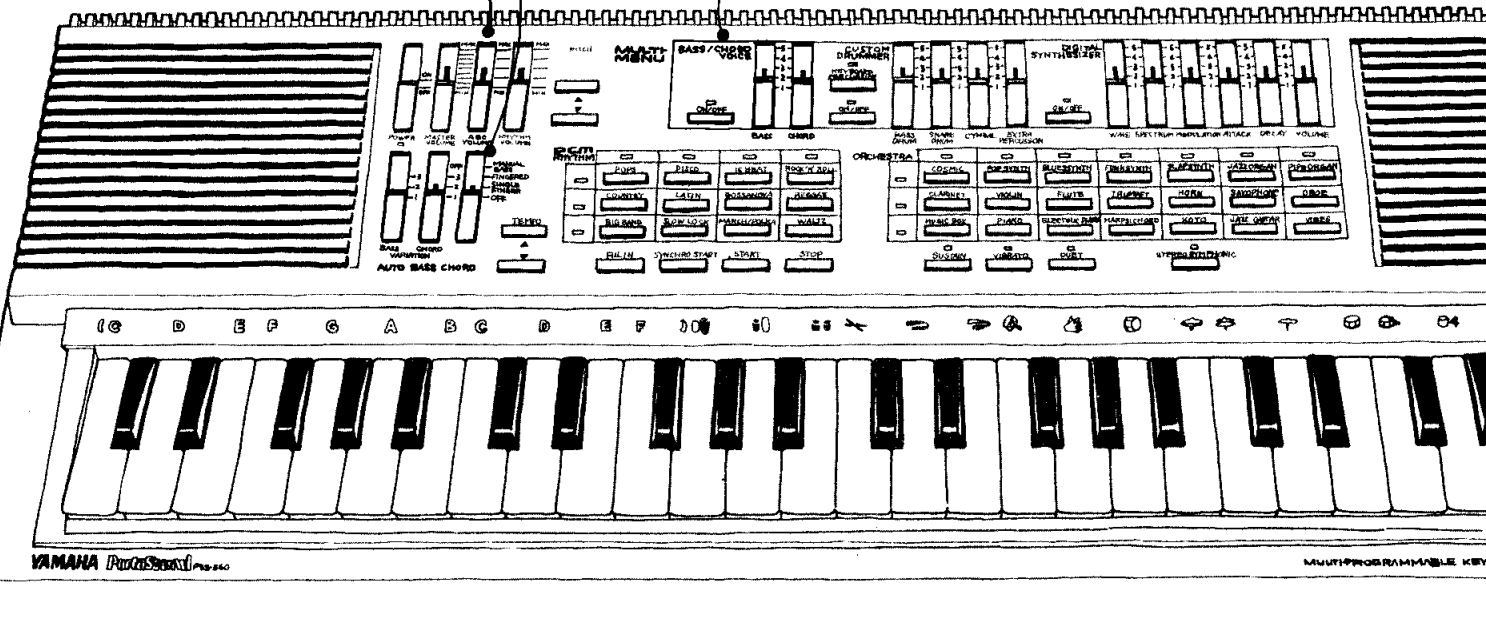
ベースのパートを自分で弾きたいときに使う。コードの音はでない。

ここが自動伴奏の担当

バンドみたいな演奏が  
ひとりでもできるオートベースコード

自動伴奏のベースとコードの音色  
を選ぶベース/コードボイス

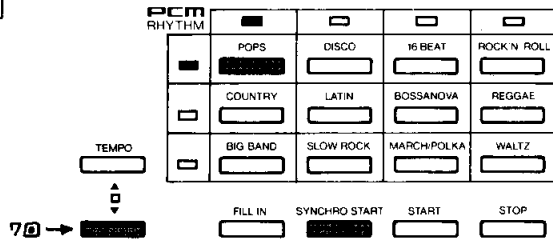
ここが自動伴奏のボリューム



# 指1本で自動伴奏…シングルフィンガー

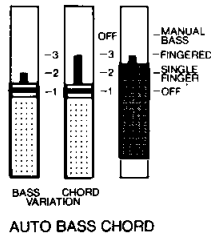
シングルフィンガーで伴奏をつけて、「いとしのエリー」を弾いてみよう。

## 1 リズムをセット。



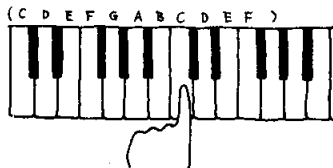
リズムセレクターのポップスのボタンを押して、テンポコントロールの▼を7回ON。シンクロスタートもON。

## 2 オートベースコードセレクターをシングルフィンガーにセット。



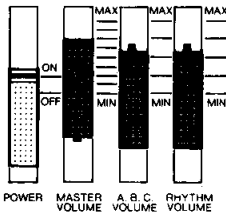
AUTO BASS CHORD

## 3 オートベースコード用鍵盤を指1本で押さえてみよう。



リズムによってコード(和音)とベースの伴奏が鳴ります。

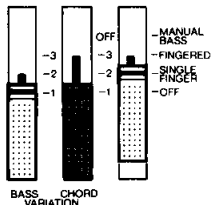
## 4 ボリュームのバランスを調節。



メロディーのジャズオルガンの音もたしながら、A,B,C,ボリュームとマスターボリューム、リズムボリュームのレバーを調節。メロディーと伴奏の音の大きさをバランスよく整えよう。

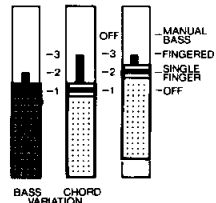
## 5 コードバリエーションでコード伴奏のパターンを選ぶ。

鳴っている自動伴奏を聴きながら、レバーを操作して曲のイメージにあるコード伴奏のパターンを選ぼう。「いとしのエリー」には、シンプルな1がいい。



## 6 ベースバリエーションでベース伴奏のパターンを選ぶ。

同じように自動伴奏を聴きながら、レバーを操作して曲のイメージにあるベース伴奏のパターンを選ぼう。ここでは、ベースも1がいい。



## 7 一度リズムをストップ。



●準備OK! それでは弾いてみよう。

## 8 シンクロスタートをON。

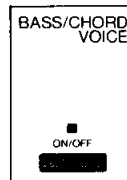


「いとしのエリー」の出だしは、ミファが右手だけ。そして、ソのところで、左手でオートベースコード用鍵盤のC(ド)を押さえて自動伴奏をスタート。

●伴奏の音色を変えるときは

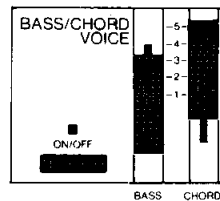
## 9 マルチメニューのベース/コードボイスのON/OFFスイッチをON。

このボタンを押すと、コードとベースの音色が変わる。



## 10 自動伴奏を鳴らしながらベースとコードのレバーでそれぞれの音色を選ぶ。

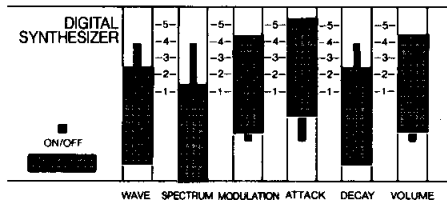
5にセットしたときの音色は、最初に鳴っていた音色と同じ。コードの音色はそのままベースだけ変えたい…というときは、コードボイスを5にセット。ここではベースを3、コードを5にしてみよう。



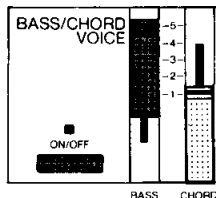
●さらに、自分でベースやコードの音色をつくる

デジタルシンセサイザーで音色をつくり、その音色をオートベースコードのベースやコードとして鳴らすこともできるのです。たとえば6ページでつくった「スリラー」のベースサウンド。この音をオートベースコードのベースにしてみよう。

1 デジタルシンセサイザーON。各レバーをセット。



2 ベース/コードボイスON。ベースのレバーを5にセット。



(リズムはやっぱりディスコあたりがいいかな…)

3 オートベースコードを鳴らしてみよう。

あれ? ヘンだゾ…これじゃあ、音が低すぎる。

オートベースコードのベースは、いちばん左はじ1オクターブ前後の音程で鳴るため、実際に弾いていた音のイメージより低くなってしまふ。それでは、デジタルシンセサイザーで調整。

いとしのエリー

Musio & Words by K. Kuwata

シンクロスタートON! ことから演奏スタート ↓

なか

したこともある つめたくしてもなお より そうきもちがあれば いいのさ おれ

1. C 2. C

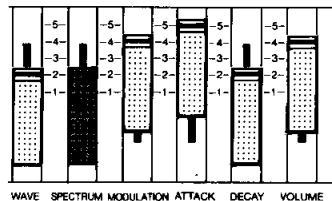
にしてみりゃこれが さいごの la-dy エリー my love so sweet

©1979 by BURNING PUBLISHERS. 日本音楽著作権協会(出)許諾第8572012-501号

★コードのおさえ方



4 スペクトラムを2に上げる。



こんどはGood! ベース/コードボイスのコードも5にすると、ベースとコードの両方が「スリラー」のベースサウンドとなる。

(このときメロディーを弾く鍵盤からでる音は、オーケストラの音色。)

NOTE:

★自動伴奏は鍵盤から指を離れたあとも同じようくり返されます。

コードが変わるときだけ鍵盤を押さえなおせば、OK。

★コードを変えるとき、指を鍵盤から離さないで動かすとコードが変わらないことがあります。いったん鍵盤から指を離してからつぎのコードの鍵盤を押さえるようにしましょう。

★オートベースコードの音色はオーケストラで選んだ音色と関係ありません。

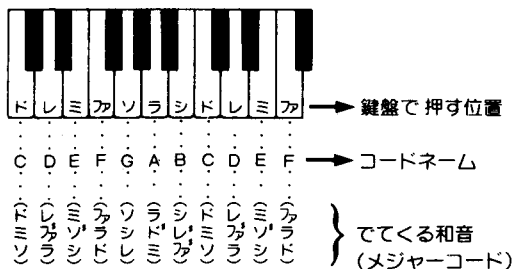
★オートベースコードを使っているとき、メロディー演奏は同時に5音しか鳴らせません。

## シングルフィンガーコードのまとめ

シングルフィンガーコードを使ってだせるコードは、アルファベット1文字の「メジャーコード」、小さなmのついた「マイナーコード」、小さな7のついた「セブンスコード」、そしてmと7の両方がついた「マイナーセブンスコード」の4種類です。ちょっとしたキマリを覚えてしまえばカンタンなこと。ガンバロー!

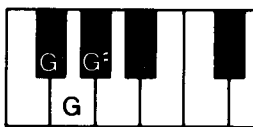
### ●メジャーコードについて

まずは基本中の基本、メジャーコードの鍵盤の位置を覚えてしまおう。オートベースコード用鍵盤を押す位置と出てくる和音の関係は、次のとおり。



### ●#、bのついているコードをだすには

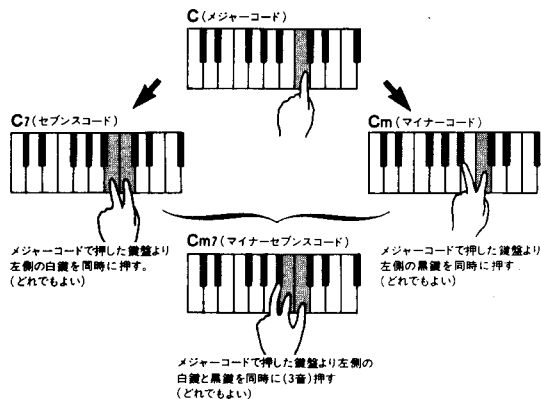
メジャーコードのなかには、#(シャープ)やb(フラット)のついているものもあります。この#やbは、音符についている場合と同じように「半音上げる(#)」 「半音下げる(b)」という記号です。



上の図のように、#がついていたら右上の黒鍵、bがついていたら左上の黒鍵を押せば#・bのコードはOK。

### ●小さなmや7のついたコードをだすには

[Am]のようなマイナーコードや[G7]のようなセブンスコードは、下の図のように2つの鍵盤を同時に押さえることで出すことができます。さらに[Dm7]のようなマイナーセブンスコードは3つの鍵盤を同時に押さえます。ここまでマスターすればシングルフィンガーコード自由自在!



## オートベースコード操作の流れ

メロディー部分のセット

オーケストラ

- トーンセクターで音色を選ぶ
- 効果を加えたいときは、そのボタンをON

(デジタルシンセサイザーの音色を使うときは、デジタルシンセサイザーをONしてレバーをセット)



伴奏部分のセット

リズム

- リズムセクターでリズムを選ぶ
- テンポコントロールの調節
- リズムボリュームの調節
- シンクロスタート、またはスタートをON

(リズムのパターンを変えたいときはカスタムドラマーをONして、レバーをセット)

オートベースコード

- オートベースコードセクターをセット
- A.B.C.ボリュームの調節
- バリエーションでコードとベースのパターンを選ぶ

(ベースやコードの音色を変えたいときはベース/コードボイスをONして、レバーをセット)











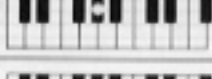



# Let's Play














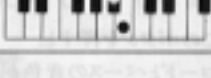
# コード早見表

## シングルフィンガーコード













### メジャーコード

C	
D <sup>♯</sup> (C <sup>♯</sup> )	
D	
E <sup>♯</sup> (D <sup>♯</sup> )	
E	
F	
F <sup>♯</sup> (G <sup>♯</sup> )	
G	
A <sup>♯</sup> (G <sup>♯</sup> )	
A	
B <sup>♯</sup> (A <sup>♯</sup> )	
B	








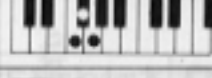




### マイナーコード

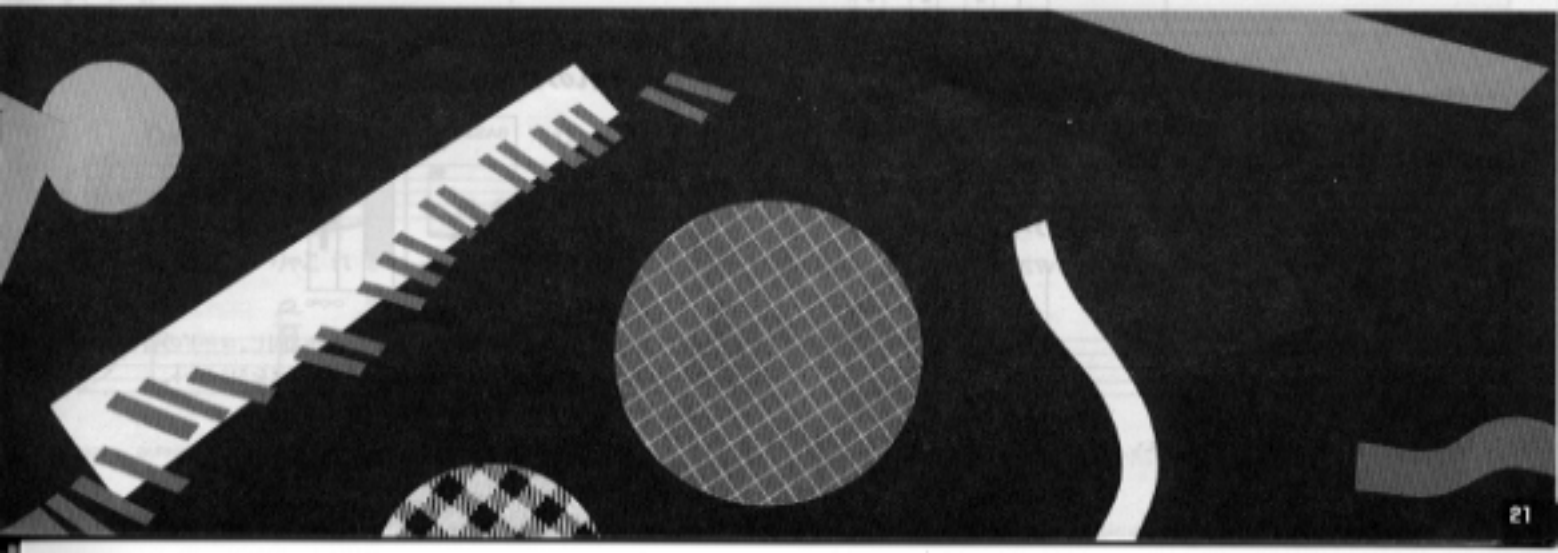
Cm	
D <sup>♯</sup> m (C <sup>♯</sup> m)	
Dm	
E <sup>♯</sup> m (D <sup>♯</sup> m)	
Em	
Fm	
F <sup>♯</sup> m (G <sup>♯</sup> m)	
Gm	
A <sup>♯</sup> m (G <sup>♯</sup> m)	
Am	
B <sup>♯</sup> m (A <sup>♯</sup> m)	
Bm	

### セブンスコード

C7	
D <sup>♯</sup> 7 (C <sup>♯</sup> 7)	
D7	
E <sup>♯</sup> 7 (D <sup>♯</sup> 7)	
E7	
F7	
F <sup>♯</sup> 7 (G <sup>♯</sup> 7)	
G7	
A <sup>♯</sup> 7 (G <sup>♯</sup> 7)	
A7	
B <sup>♯</sup> 7 (A <sup>♯</sup> 7)	
B7	

### マイナーセブンスコード

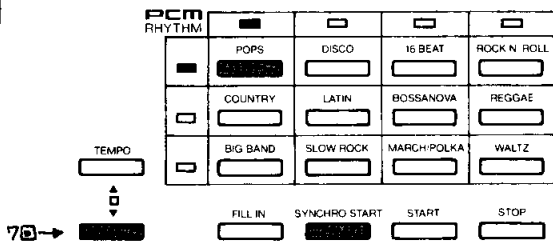
Cm7	
D <sup>♯</sup> m7 (C <sup>♯</sup> m7)	
Dm7	
E <sup>♯</sup> m7 (D <sup>♯</sup> m7)	
Em7	
Fm7	
F <sup>♯</sup> m7 (G <sup>♯</sup> m7)	
Gm7	
A <sup>♯</sup> m7 (G <sup>♯</sup> m7)	
Am7	
B <sup>♯</sup> m7 (A <sup>♯</sup> m7)	
Bm7	



# 和音を押さえて自動伴奏…フィンガード

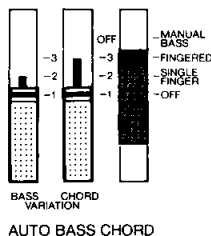
フィンガードコードで伴奏をつけて「いとしのエリー」を弾いてみよう。

## 1 リズムをセット。



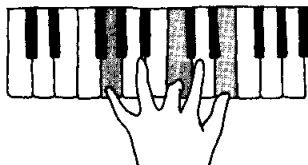
リズムセクターのポップスのボタンを押して、テンポコントロールの▼を7回ON。シンクロススタートもON。

## 2 オートベースコードセクターをフィンガードにセット。



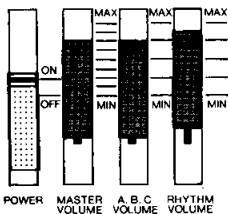
## 3 オートベースコード用鍵盤で和音を押さえてみよう。

たとえば  
Cコードなら…



リズムによってコード(和音)とベースの伴奏が鳴ります。

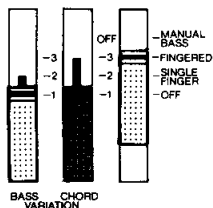
## 4 ボリュームのバランスを調節。



メロディーのジャズオルガンの音もだしながら、A.B.C.ボリュームとマスターボリューム、リズムボリュームのレバーを調節して、メロディーと伴奏の音の大きさをバランスよく整えよう。

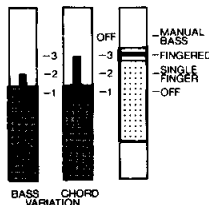
## 5 コードバリエーションでコード伴奏のパターンを選ぶ。

鳴っている自動伴奏を聴きながら、レバーを操作して曲のイメージにあうコード伴奏のパターンを選ぼう。「いとしのエリー」には、シンプルな1がいい。



## 6 ベースバリエーションでベース伴奏のパターンを選ぶ。

同じように自動伴奏を聴きながら、レバーを操作して曲のイメージにあうベース伴奏のパターンを選ぼう。ここでは、ベースも1がいい。



## 7 一度リズムをストップ。



● 準備OK! それでは、弾いてみよう。

## 8 シンクロススタートをON。

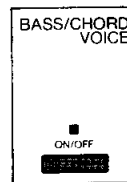


「いとしのエリー」の出だしは、ミファが右手だけ。そして、ソのところからオートベースコード用鍵盤でCコード(ソドミ)を押さえて自動伴奏をスタート。

● 伴奏の音色を変えるときは

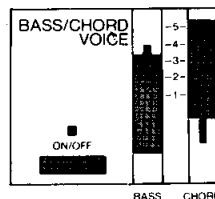
## 9 マルチメニューのベース/コードボイスのON/OFFスイッチをON。

このボタンを押すと、コードとベースの音色が変わる。



## 10 自動伴奏を鳴らしながらベースとコードのレバーでそれぞれの音色を選ぶ。

5にセットしたときの音色は、最初に鳴っていた音色と同じ。コードの音色はそのままベースだけ変えたい…というときは、コードボイスを5にセット。ここではベースを3、コードを5にしてみよう。



●さらに、自分でベースやコードの音色をつくる。

デジタルシンセサイザーで音色をつくり、その音色をオートベースコードのベースやコードとして鳴らすこともできるのです。くわしくは19ページ、シングルフィンガーの右ページをご覧ください。

NOTE :

- ★自動伴奏は鍵盤から指を離したあとも同じようにくり返されます。コードが変わるときだけ鍵盤を押さなおせば、OK。
- ★コードを変えるとき、指を鍵盤から離さないで動かすとコードが変わらないことがあります。いったん鍵盤から指を離してからつぎのコードの鍵盤を押さえるようにしましょう。
- ★オートベースコードの音色はオーケストラで選んだ音色と関係ありません。
- ★オートベースコードを使っているとき、メロディー演奏は同時に5音しか鳴らせません。

# いとしのエリー

Music & Words by K. Kuwata

C D7 F Em Dm7 G7

なか

C Em C7 F

した こと も ある つめ た く し て も な お よ り そ う き も ち が あ れ ば い い の さ お れ

Dm7 G7 C D7 F G7 1. C 2. C

に し て み や こ れ が さ い ご の l a d y エ リ ー m y l o v e s o s w e e t

# 「いとしのエリー」弾き語り…マニュアルベース

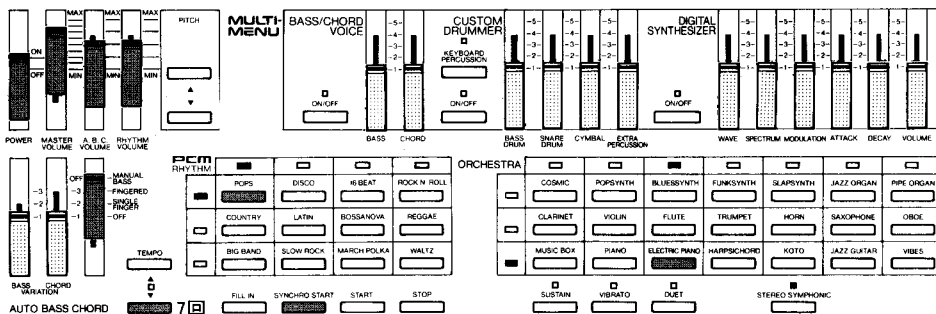
マニュアルベースは、自分でベースラインを演奏したいときにつかう。オートベースコードセレクターをマニュアルベースにセットすると、オートベースコード用鍵盤がベース演奏用となり、コードの音はでない。また、シングルフィンガーやフィンガードのときのように、自動的に刻まれることもない。弾き語りをするときに便利。

★リズムに自分でベースをあわせて刻むのがムズカシイときは、オートベースコードセレクターをシングルフィンガーにセット。そして、コードのバリエーションをOFFにすれば、コードの音はでないでベースだけがリズムによって刻まれてできます。

## いとしのエリー

Music & Words by K. Kuwata

左手でベース、右手でコードを演奏しながらうたおう。



C D7 F Em Dm7 G7

なか

C Em C7 F

したこともある つめ たくしてもなお より そうきもちがあれ ば いいのさ おれ

Dm7 G7 C D7 F G7 C

にして みりゃこれが さいごの la-dy エ リー my love so sweet

# カスタムドラマー オートベースコード・バリエーション&ボイス 曲別おススメセッティング

リズムやオートベースコードのパターン・バリエーションの豊富さはPSS-560の自慢のひとつだけど、そのなかからイメージにあわせて選ぶとすると、けっこう迷ったりするもんだ。そこで、こんな曲ならこういうセッティングがいいんじゃない? という例をあげてみた。これを参考にいろいろな曲にトライしてみよー!

曲名	リズム					オートベースコード			
	リズム セクター	カスタムドラマー				バリエーション		ボイス	
		バスドラム	スネアドラム	シンバル	エキストラ パーカッション	ベース	コード	ベース	コード
テイクオンミー (a-ha)	ポップス	4	1	2	1	1	3	4	5
心の愛 (S.ワンダー)	ポップス	1	1	1	1	1	1	5	1
天使のウイング (松田聖子)	ディスコ	5	1	2	1	1	3	4	1
ヒーロー (ボニー・タイラー)	ディスコ	1	1	3	1	2	2	3	2
ウィアーザワールド (USA for Africa)	16ビート	1	1	5	1	1	3	4	1
熱視線 (安全地帯)	16ビート	4	1	5	1	3	3	4	4
フットルース (ケニー・ロギンス)	ロックンロール	1	1	2	1	3	2	5	3
あの娘とスキャンダル (チェッカーズ)	ロックンロール	3	2	2	1	1	1	3	3
カントリーロード (J. デンバー)	カントリー	3	3	1	1	1	1	4	4
ジャンバラヤ (カーペンターズ)	カントリー	2	2	1	2	2	2	1	5
コパカバーナ (バリー・マニロウ)	ラテン	2	3	2	5	1	1	3	3
ミアモーレ (中森明菜)	ラテン	3	1	1	3	3	3	5	2
あの日に帰りたい (松任谷由美)	ボサノバ	1	1	1	2	1	2	4	4
アイ・ショット・ザ・シェリフ (ボブ・マーレー)	レゲエ	3	2	1	1	1	1	4	3
A列車で行こう	ビッグバンド	1	3	4	1	2	1	1	5
セーラー服をさがすナイデ (おニャン子クラブ)	ビッグバンド	1	2	4	1	2	2	1	3
ルールザワールド (ティアーズ フォーフィアーズ)	スローロック	2	1	1	3	1	2	3	2
ハートオブレインボー (チェッカーズ)	スローロック	3	1	5	1	2	2	4	5
ジングルベル	マーチ/ポルカ	2	1	1	1	1	1	3	5
早春物語 (原田知世)	ワルツ	1	1	4	1	1	3	4	1

# コード早見表

## フィンガードコード

### メジャーコード

C	
D <sup>♯</sup> (C <sup>♯</sup> )	
D	
E <sup>♯</sup> (D <sup>♯</sup> )	
E	
F	
F <sup>♯</sup> (G <sup>♯</sup> )	
G	
A <sup>♯</sup> (G <sup>♯</sup> )	
A	
B <sup>♯</sup> (A <sup>♯</sup> )	
B	

### マイナーコード

Cm	
D <sup>♯</sup> m (C <sup>♯</sup> m)	
Dm	
E <sup>♯</sup> m (D <sup>♯</sup> m)	
Em	
Fm	
F <sup>♯</sup> m (G <sup>♯</sup> m)	
Gm	
A <sup>♯</sup> m (G <sup>♯</sup> m)	
Am	
B <sup>♯</sup> m (A <sup>♯</sup> m)	
Bm	

### セブンスコード

C7	
D <sup>♯</sup> 7 (C <sup>♯</sup> 7)	
D7	
E <sup>♯</sup> 7 (D <sup>♯</sup> 7)	
E7	
F7	
F <sup>♯</sup> 7 (G <sup>♯</sup> 7)	
G7	
A <sup>♯</sup> 7 (G <sup>♯</sup> 7)	
A7	
*	
B <sup>♯</sup> 7 (A <sup>♯</sup> 7)	
*	
B7	
*	

※は転回型、他は基本型です

マイナーセブンスコード

Cm7

D<sup>♭</sup>m7 (C<sup>♭</sup>m7)

Dm7

E<sup>♭</sup>m7 (D<sup>♭</sup>m7)

Em7

Fm7

F<sup>♭</sup>m7 (G<sup>♭</sup>m7)

Gm7

A<sup>♭</sup>m7 (G<sup>♭</sup>m7)

Am7 \*

B<sup>♭</sup>m7 (A<sup>♭</sup>m7) \*

Bm7 \*

メジャーセブンスコード

Cmaj7

D<sup>♭</sup>maj7 (C<sup>♭</sup>maj7)

Dmaj7

E<sup>♭</sup>maj7 (D<sup>♭</sup>maj7)

Emaj7

Fmaj7

F<sup>♭</sup>maj7 (G<sup>♭</sup>maj7)

Gmaj7

A<sup>♭</sup>maj7 (G<sup>♭</sup>maj7) \*

Amaj7 \*

B<sup>♭</sup>maj7 (A<sup>♭</sup>maj7) \*

Bmaj7 \*

ディミニッシュコード

Cdim

D<sup>♭</sup>dim (C<sup>♭</sup>dim)

Ddim

E<sup>♭</sup>dim (D<sup>♭</sup>dim)

Edim

Fdim

F<sup>♭</sup>dim (G<sup>♭</sup>dim)

Gdim

A<sup>♭</sup>dim (G<sup>♭</sup>dim)

Adim

B<sup>♭</sup>dim (A<sup>♭</sup>dim) \*

Bdim \*

オーギュメントコード

Caug

D<sup>♭</sup>aug (C<sup>♭</sup>aug)

Daug

E<sup>♭</sup>aug (D<sup>♭</sup>aug)

Eaug

Faug

F<sup>♭</sup>aug (G<sup>♭</sup>aug)

Gaug

A<sup>♭</sup>aug (G<sup>♭</sup>aug)

Aaug

B<sup>♭</sup>aug (A<sup>♭</sup>aug)

Baug

マイナーセブンスフラットテッド  
フィフスコード

Cm7<sup>-5</sup>

D<sup>♭</sup>m7<sup>-5</sup> (C<sup>♭</sup>m7<sup>-5</sup>)

Dm7<sup>-5</sup>

E<sup>♭</sup>m7<sup>-5</sup> (D<sup>♭</sup>m7<sup>-5</sup>)

Em7<sup>-5</sup>

Fm7<sup>-5</sup>

F<sup>♭</sup>m7<sup>-5</sup> (G<sup>♭</sup>m7<sup>-5</sup>)

Gm7<sup>-5</sup>

A<sup>♭</sup>m7<sup>-5</sup> (G<sup>♭</sup>m7<sup>-5</sup>)

Am7<sup>-5</sup> \*

B<sup>♭</sup>m7<sup>-5</sup> (A<sup>♭</sup>m7<sup>-5</sup>) \*

Bm7<sup>-5</sup> \*

セブンスサス・フォードコード

C7sus4

D<sup>♭</sup>7sus4 (C<sup>♭</sup>7sus4)

D7sus4

E<sup>♭</sup>7sus4 (D<sup>♭</sup>7sus4)

E7sus4

F7sus4

F<sup>♭</sup>7sus4 (G<sup>♭</sup>7sus4)

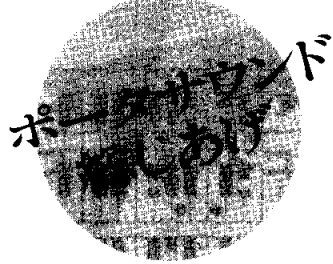
Gsus4

A<sup>♭</sup>7sus4 (G<sup>♭</sup>7sus4)

A7sus4 \*

B<sup>♭</sup>7sus4 (A<sup>♭</sup>7sus4) \*

B7sus4 \*



# ポニーテールサウンド 滑モデラートにトライ!

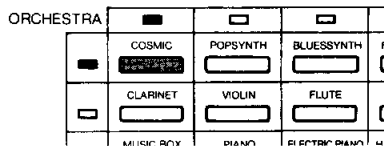
高中正義のヒット曲。途中からリズムを変えるなどというワザがあるけれど、そんなにテンポも速くないので大丈夫。マルチメニューをフル活用するとけっこうイキ雰囲気。

●メロディーの音色をつくる。

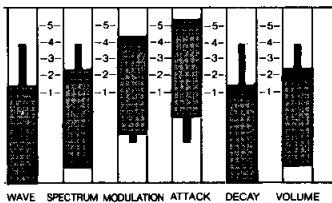
**1** デジタルシンセサイザーON/OFFスイッチをOFFにする。



**2** オーケストラのトーンセレクターでコズミックを選び、そのボタンをON。



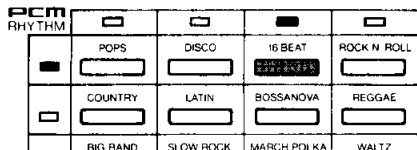
**3** デジタルシンセサイザーのそれぞれのレバーを図のようにセット。



レバーがはじめから同じ位置にあってもいちど動かしてセットしなおす。これで、あのちょっと歪んだようなディストーション・ギターサウンドができてあがる。

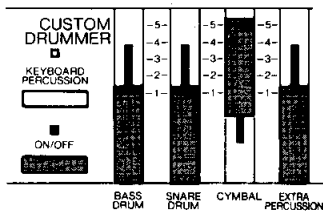
●リズムを選び、ちょっと味つけをする。

**4** リズムセレクターで16ビートを選び、そのボタンをON。



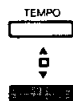
リズムのスタートボタンを押してリズムを鳴らしてみる。

**5** カスタムドラマーをON。レバーをセット。



リズムの音をききながら、パターンを選ぶ。ここではシンバルを5、あとはすべて1にセット。

**6** テンポコントロールでテンポを調節。

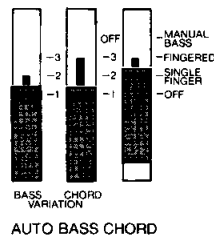


ここでは▼を3回ON。

●オートベースコードの音色とパターンを選ぶ。

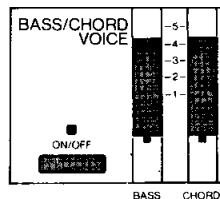
**7** オートベースコードセレクターをシングルフィンガーにセット。

**8** ベースとコードのバリエーションをセット。



ここでは両方とも1にしよう。

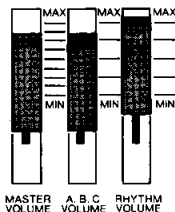
**9** ベース/コードボイスをON。オートベースコードの音色を選ぶ。



ここでは、両方とも4に。

●最後にメロディー、リズム、オートベースコードの音量のバランスを整える。

**10** マスターボリューム、A.B.C.ボリューム、リズムボリュームの3つを調節。



**11** いちどリズムをストップ。



●準備OK!? それではプレイ。

**12** シンクロスタートをON。プレイスタート。



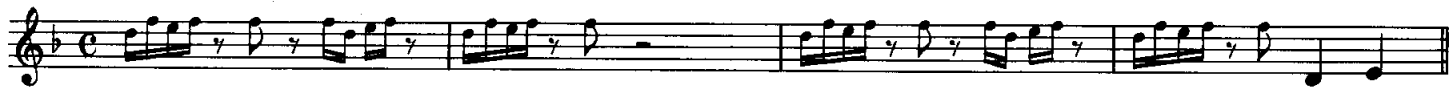
はじめはゆっくりのテンポにして練習しよう。



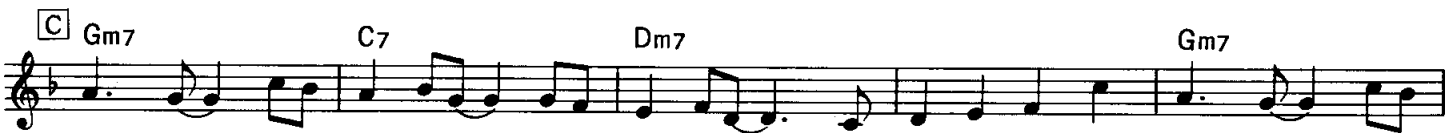
### ★プレイングアドバイス

原曲から、かなりやさしくアレンジしてみた。最初はイントロをぬき、シンクロスタートで[A]の前の小節の「レ・ミ～」からプレイ。[A]から伴奏が入るワケ。なれてきたら、イントロや途中のリズム・チェンジに挑戦しよう。イントロはリズムだけ。右手の「レ」

を押すと同時に左手でリズム・スタートをON。そして、[C]からはリズムをディスコにするが、その前の小節でチェンジ。左手でDm7を押さえたらすぐシンクロスタートON(これでブレイクになる)、ディスコのボタンをONする。



左手でシンクロスタートON。  
ディスコにリズム変更。  
↓ここまでブレイクになる!



↑  
シンクロスタートON。  
リズムを16ビートに戻す。

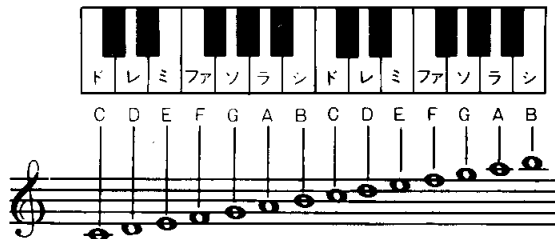
↑  
ここでオートベースコードセクターをOFF。  
リズムだけにする。右手で演奏をしながら  
左手でマスターボリュームをだんだん下げて  
フェイドアウト。

©1985 by LAGOON MUSIC. 日本音楽著作権協会(出)許諾第8572012-501号

### ★コードのおさえ方



## ●五線譜の読み方は



## ●音符と休符の長さは

音符の種類と名称	4分音符と比較した長さ	休符の種類と名称	4分休符と比較した長さ
○ 全音符	4つ分	— 全休符	4つ分休む
◡ 付点2分音符	3つ分	— 付点2分休符	3つ分休む
◡ 2分音符	2つ分	— 2分休符	2つ分休む
◡ 4分音符		♩ 4分休符	
♭ 8分音符	♭ (♭♭ = ◡) 半分	♪ 8分休符	♪ (♪♪ = ♩) 半分休む
♭ 16分音符	♭ (♭♭♭♭ = ◡) 1/4	♫ 16分休符	♫ (♫♫♫♫ = ♩) 1/4休む
3連音符	♪ 3等分する		

( )は♪を3等分)

## ●記号を覚えましょう

記号とよみ方	意味	記号とよみ方	意味
# シャープ	半音あげる	: :   リピート	くりかえし
b フラット	半音さげる	1番かっこ 2番かっこ	くりかえしのあと「2」へ。
♮ ナチュラル	もとの音にもどす	D.C. ダカーボ	最初からくりかえし。
タイ	音を続ける	D.S. ダルセーニョ	記号後からくりかえし。
スラー	なめらかに	♠ Coda コーダ	くりかえしのあとto ♠から♠Codaへ。
フェルマータ	その音をのばす		
Tacet タセット	伴奏を休む		
Fine フィーネ	おわり		

# Let's Play

## 碧い瞳のエリス

作詞 松井五郎  
作曲 玉置浩二

### ★プレイングアドバイス

ご存じ安全地帯デス。リズムもスローだし、メロディーもやさしいので、まずはこの曲をクリアしよう。サビに入るところでフィルインを入れると効果的。

The control panel includes sections for: POWER, MASTER VOLUME, A, B, C VOLUME, RHYTHM VOLUME, RITCH, MULTI-MENU, BASS/CHORD VOICE, CUSTOM DRUMMER, DIGITAL SYNTHESIZER, WAVE, SPECTRUM, MODULATION, ATTACK, DECAY, VOLUME, PCM RHYTHM (POPS, DISCO, 16 BEAT, ROCK N ROLL, COUNTRY, LATIN, BOSSANOVA, REGGAE, BIG BAND, SLOW ROCK, MARCH POLKA, WALTZ), ORCHESTRA (COSMIC, CLARINET, MUSIC BOX, SUSTAIN, VIBRATO, DUET, STEREO SYMPHONIC), and various synth types like POPSYNTH, BLUESYNTH, FUNKSYNTH, SLAPSYNTH, JAZZ ORGAIN, PIPE ORGAIN, etc.

Am E7 Am Dm G7 C E7  
なくしたゆめは あおいゆめのいろ

Am E7 Am G Am  
あなたにそっと うちあけたい

E7 Am E7 Am F Dm E7 フィルイン  
ひとりきりを われるように どん

Am Dm G7 C F Dm E7  
なにかないことも わたしにつたえてあな

Am Dm G7 C Dm E7 Am  
たのひとみの エリス みつめかえして

©1985 by Kitty Music Co. & Burring Publishers Co. Ltd. 日本音楽著作権協会(出)許諾第8572012-501号

### ★コードのおさえ方

Am E7 Dm G7 C G F

# Let's Play

## 1グラムの幸福

作詞 松本 隆  
作曲 飯島真理

### ★プレイングアドバイス

「わくわく動物ランド」のテーマ曲。イントロはマリちゃんらしく、オーケストラのエレピで。歌に入るところで(A)でデジタルシンセサイザーをONしよう。また、おしまいはCの鍵盤を押さえたまま、タイミングよくリズムをストップ。メロディー演奏はタイに注意して!

Em7 Am7 Dm7 G7 C F C G7 **A**F G

デジタルシンセON. きずついーたときは

Em7 Am7 Dm7 G7 C Dm7 Em7

すぐ わたしをよびだして

**B**F G Em7 A7 Dm7 G7

くじけたころを いまげんきよく ノックしたいの

C C7 **C**F Dm7 Em7 A7

あかいリボン かけた

F Dm7 Em7 Eb7 Dm7 G7 **D**C Bm7 E7

あいをだいて カスタムドラマーOFF. ああ しあわせを

Am Gm7 C7 F G7 C F G7

いちグラム あげましよう

C Bm7 E7 Am D7 Em7 Am7 Dm7 G7

あなにもないけれど のひらのうえにのせ

Em7 Am7 Dm7 G7 Em7 Am Dm7 G7 B<sup>b</sup> F A<sup>b</sup> D<sup>b</sup> C

てなみだを スパイスして

©1984 by UNI Japan Music Inc. 日本音楽著作権協会(出)許諾第8572012-501号

### ★コードのおさえ方

# Let's Play ワン・モア・ナイト One More Night

作曲 Phil Collins

## ★プレイングアドバイス

CMのバックにもなっているフィル・コリンズのヒット。メロディーの和音にドキッとすることもあるかもしれないけれど、出だしと同じフレーズばかりなので、なれてしまえば意外とカンタン。イントロと最後([D])だけにデジタルシンセサイザーを使って、あとはコズミックでメロディーを。おしまいは、左手でAの鍵盤を押さえたまま、リズムをストップ。

The control panel includes the following sections:

- POWER:** ON/OFF switch.
- VOLUME:** MASTER VOLUME, A. B. C. RHYTHM VOLUME sliders.
- BASS/CHORD VOICE:** BASS, CHORD sliders.
- CUSTOM DRUMMER:** ON/OFF switch.
- DIGITAL SYNTHESIZER:** WAVE, SPECTRUM, MODULATION, ATTACK, DECAY sliders.
- ORCHESTRA:** COSMIC, POPSYNTH, BLUESYNTH, FUNKSYNTH, SLAPSYNTH, JAZZ ORGAN, PIPE ORGAN, CLARINET, VIOLIN, FLUTE, TRUMPET, HORN, SAXOPHONE, OBOE, MUSIC BOX, PIANO, ELECTRIC PIANO, HARP/CHORD, KOTO, JAZZ GUITAR, YIBES.
- PCM RHYTHM:** POPS, DISCO, 16 BEAT, ROCK N ROLL, COUNTRY, LATIN, BOSSANOVA, REGGAE, BIG BAND, SLOW ROCK, MARCH POLKA, WALTZ.
- MANUAL BASS:** OFF, FINGERED, FINGERED OFF.
- TEMPO:** 6回 (6 times) button.
- FUNCTIONS:** FILE IN, 5 MINCHRO START, START, STOP, SUSTAIN, VIBRATO, DUET, STEREO SYMPHONIC.

The musical score consists of the following sections:

- Section A:** Chords: F, Em, Dm7, C, F, Em, Dm7. Includes instruction: デジタルシンセOFF.
- Section B:** Chords: G, C, G, C, G, C, Dm7, G7.
- Section C:** Chords: Am, B<sup>b</sup>, Am, C7, Am, B<sup>b</sup>, Am, C7.
- Section D:** Chords: G, C, G, C, G, C, Dm, G. Includes instruction: デジタルシンセON. Ends with a double bar line and 'D.S.' (Da Capo).

©1985 by Hit & Run Music(Publishing) Ltd.  
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS.

日本音楽著作権協会(出)許諾第8572012-501号

## ★コードのおさえ方

The diagram shows the following chord fingerings:

- G:** 3rd fret, 2nd string; 3rd fret, 4th string; 3rd fret, 5th string.
- C:** 3rd fret, 2nd string; 2nd fret, 4th string; 1st fret, 5th string.
- F:** 1st fret, 2nd string; 2nd fret, 3rd string; 3rd fret, 4th string; 4th fret, 5th string.
- Em:** 2nd fret, 4th string; 2nd fret, 5th string.
- Dm7:** 2nd fret, 4th string; 2nd fret, 5th string; 1st fret, 2nd string; 1st fret, 3rd string.
- Em7:** 2nd fret, 4th string; 2nd fret, 5th string; 1st fret, 2nd string; 1st fret, 3rd string.
- G7:** 3rd fret, 2nd string; 3rd fret, 4th string; 3rd fret, 5th string; 2nd fret, 1st string.
- Am:** 1st fret, 2nd string; 2nd fret, 3rd string; 1st fret, 4th string; 1st fret, 5th string.
- C7:** 3rd fret, 2nd string; 2nd fret, 4th string; 1st fret, 5th string; 2nd fret, 1st string.
- Dm:** 2nd fret, 4th string; 2nd fret, 5th string; 1st fret, 2nd string; 1st fret, 3rd string.
- B<sup>b</sup>:** 3rd fret, 2nd string; 3rd fret, 4th string; 3rd fret, 5th string; 2nd fret, 1st string.

# Let's Play

## オーメンズ・オブ・ラブ

OMENS OF LOVE 作曲 和泉宏隆

### ★プレイングアドバイス

日本のフュージョンを代表するザ・スクエアの曲。イントロはトランペットとマニュアルベースで、リズムはなし。[A]に行くときにシンクロON、オートベースコードをフィンガードにするが、この操作はあせらずにゆっくりでOK! [A]から[B]に行くときにコードバリエーションをOFFから3に。つまり[B]からコード・バックが演奏に加わる。デジタルシンセに音色を変えるの

The control panel includes the following sections:

- POWER:** ON/OFF
- MASTER VOLUME:** MIN to MAX
- A, B, C RHYTHM VOLUME:** MIN to MAX
- PITCH:** MIN to MAX
- MULTI-MENU:** Selection buttons
- BASS/CHORD VOICE:** ON/OFF
- CUSTOM DRUMMER:** ON/OFF
- DIGITAL SYNTHESIZER:** ON/OFF
- PCM RHYTHM:** POP, DISCO, IS BEAT, ROCK N' ROLL, COUNTRY, LATIN, BOSSANOVIA, REGGAE, BIG BAND, SLOW ROCK, MARCH POLKA, WALTZ
- ORCHESTRA:** COSMIC, POPSYNTH, BLUESYNTH, FUNKSYNTH, SLAPSYNTH, JAZZ ORGAN, PIPE ORGAN, CLARINET, VIOLIN, FLUTE, TRUMPET, HORN, SAXOPHONE, OBOE, MUSIC BOX, PIANO, ELECTRIC PIANO, HARPICHOIR, KOTO, JAZZ GUITAR, VIBES
- PERFORMANCE:** SUSTAIN, VIBRATO, DUET, STEREO SYMPHONIC
- FUNCTIONS:** AUTO BASS CHORD, FILL IN, SYNCHRO START, START, STOP

もここで。おしまいやはり鍵盤をおさえたまま、リズムをストップ。左手の指をガンバって広げよう。

↑ オートベースセクター-OFF.

A

↑ シンクロスタートON。  
オートベースコードをフィンガードに。

デジタルシンセON.

B C

↓ コードバリエーションを3に。

Em7 F G7 E7 Am7 1. D7 G7sus4

G7 2. D7 G7sus4 G7 C F G

Em7 A Dm7 G7sus4 A

Dm7 Em7 E7 Am F Em7

Dm7 G7sus4 G7 D C Em7 Gm7

コーポレーションに。

A Dm7 G7sus4 1. G7

2. Bm<sup>5</sup> E7 Am A<sup>b</sup>aug Am7 D7

Dm7 G7sus4 C G F G C

# 故障と取りやすい現象

故障した! と驚く前にちょっとお確かめください。

現象	原因	解決法
パワースイッチを入れたとき、ボツンと音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
パイロットランプが暗い。	①電池がなくなりかかっているため。 ②音量が大きいとき、一時的に電圧が下がるため。	①すべて新しい電池と交換してください。 ②ご心配いりません。
トーンセクターで選んだ音色とは、別の音色がでる。	①オートベースコードを使っているとき、オートベースコード用鍵盤で弾いている。 ②デジタルシンセサイザーの ON/OFF スイッチが押されている。 ③音色を選んだ後にデジタルシンセサイザーのレバーを動かした。 ④カスタムドラマーのキーボードパーカッションが ON になっている。	①オートベースコードを使っているときにでてくる自動伴奏の音色はトーンセレクトで選んだ音色とは関係ありません。 ②③4~9ページの説明をお読みください。 ④キーボードパーカッションのボタンを押して OFF にしてください。
鍵盤を同時に10音押さえても9音しかでない。また、オートベースコードを使っているとき、鍵盤を同時に6音押さえても5音しかでない。	音色は同時に9音までしかでないようになっています。また、デュエットを ON しているときは8音、オートベースコードを使っているときは5音、さらにその両方を使用していると4音しかでません。	先に押さえた音が優先します。
デュエットの音がでない。	①オートベースコードを使用していない。 ②オートベースコードがマニュアルベースになっている。	①②デュエットはオートベースコードと連動し、押さえられたコードによってハーモニーの音を選びます。シングルフィンガー、またはフィンガードをご使用ください。
リズムの音がでない。	①シンクロススタート、もしくはスタートのボタンが押されていない。 ②シンクロススタートのボタンを押して、オートベースコード用鍵盤を押していない。 ③リズムボリュームが最小の位置にある。 ④カスタムドラマーのキーボードパーカッションが ON されている。	①②③12ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。 ④キーボードパーカッションのボタンを押して OFF にしてください。
リズムセクターで選んだリズムとは別のリズムがでる。	①フィルインが押されている。 ②カスタムドラマーの ON/OFF スイッチが ON されている。	①フィルインを押すとリズムは変化パターンに切りかわります。 ②カスタムドラマーの ON/OFF スイッチを OFF にしてください。
キーボードパーカッションを使用しているとき、鍵盤から音がでない。	①リズムボリュームが最小の位置にある。 ②キーボードパーカッション用鍵盤部の黒鍵から音はでません。	①②15ページの説明をお読みください。
オートベースコードの音がでない。	①オートベースコードセクターが OFF の位置になっている。 ②オートベースコード用鍵盤を押さえていない。 ③リズムがセットされていない。 ④オートベースコードセクターがマニュアルベースにセットされている。 ⑤コードバリエーションが OFF にセットされている。	①②③16~24ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。 ④⑤24ページの説明をお読みください。
オートベースコードで伴奏しているとき、指を変えてもコードが変わらない。	オートベースコード用鍵盤からいったん指を離さずに弾いているため。	コードを変えるときは、いちど鍵盤から指を離すようにしてください。
鍵盤を押さえてもデジタルシンセサイザーの音が鳴らない。	オートベースコードを使用しているとき、マルチメニューのベース/コードボイスが ON で、さらにどちらかのレバーが5にセットされているため。	ベース/コードボイスのいずれかのレバーが5にセットしてあると、デジタルシンセサイザーでつくった音は、ベース/コードボイスの5の音色として鳴ります。



## ●鍵盤

ミニ鍵盤49鍵(C1-C5)

## ●オーケストラ

トーンセレクター(音色—21種類)

ロズミック ポップシンセ  
 ブルースシンセ ファンクシンセ  
 スラップシンセ ジャズオルガン  
 パイプオルガン クラリネット  
 バイオリン フルート  
 トランペット ホルン  
 サキソフォン オーボエ  
 ミュージックボックス ピアノ  
 エレクトリックピアノ  
 ハープシコード 琴  
 ジャズギター バイブ

## ●効果

サステイン  
 ビブラート  
 デュエット  
 ステレオシンフォニック

## ●リズム

リズムセレクター(リズム—12種類)

ポップス ディスコ  
 16ビート ロックンロール  
 カントリー ラテン  
 ボサノバ レゲエ  
 ビッグバンド スローロック  
 マーチ/ポルカ ワルツ

## リズムコントロール

リズムボリューム  
 フィルインスイッチ  
 シンクロススタートスイッチ  
 スタートスイッチ  
 ストップスイッチ  
 テンポコントロールスイッチ  
 テンポランプ  
 (テンポ調節31段階)

回数	テンポ(♩=)	
	ボタン▼	ボタン▲
0	120	
1	113	130
2	106	140
3	100	150
4	93	160
5	86	170
6	80	183
7	74	197
8	70	211
9	66	226
10	62	242
11	58	258
12	54	276
13	50	296
14	46	317
15	43	340

## ●オートベースコード

オートベースコードセレクター  
 (オフ/シングルフィンガー/  
 フィンガード/マニュアルベース)  
 コードバリエーション(1/2/3/オフ)  
 ベースバリエーション(1/2/3)  
 A. B. C. ボリューム

## ●マルチメニュー

デジタルシンセサイザー  
 ON/OFFスイッチ  
 ウェーブ  
 スペクトラム  
 モジュレーション  
 アタック  
 デイケイ  
 ボリューム

## カスタムドラマー

キーボードパーカッションスイッチ  
 ON/OFFスイッチ  
 バスドラム  
 スネアドラム  
 シンバル  
 エキス|パーカッション

## ベース/コードボイス

ON/OFFスイッチ  
 ベース  
 コード

## ●その他のコントロール

パワーON/OFFスイッチ  
 パイロットランプ  
 マスターボリューム  
 ピッチコントロール(可変幅±50セント)

## ●メインアンプ

1.4W×2(6Ω負荷)

## ●スピーカー

10cm(6Ω)×2

## ●定格電源

DC9V:単2乾電池6個  
 電源アダプター(PA-1)

## ●消費電力

電源アダプター(PA-1)  
 使用時:5.0W  
 電池使用時:3.0W  
 電池寿命:通常演奏で連続8時間以上

## ●付属端子

DC-IN 9-12V JACK  
 HEADPHONES JACK  
 AUX. OUT L・R JACK

## ●寸法・外装

本体材質:スチロール樹脂  
 仕上げ:アクリルラッカー塗装  
 間口:652mm  
 奥行:282mm  
 高さ:91mm  
 重量:3.2kg(乾電池重量含まず)

## ●付属品

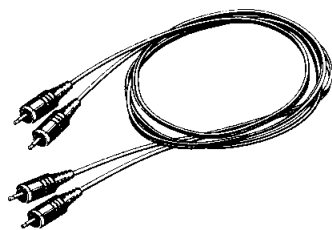
単2乾電池6個

## オプション

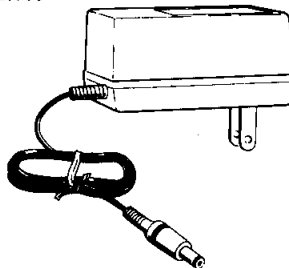
ステレオヘッドホン[YHD-3]  
 ¥5,500



オーディオ接続コード[PSC-3]  
 ¥1,000



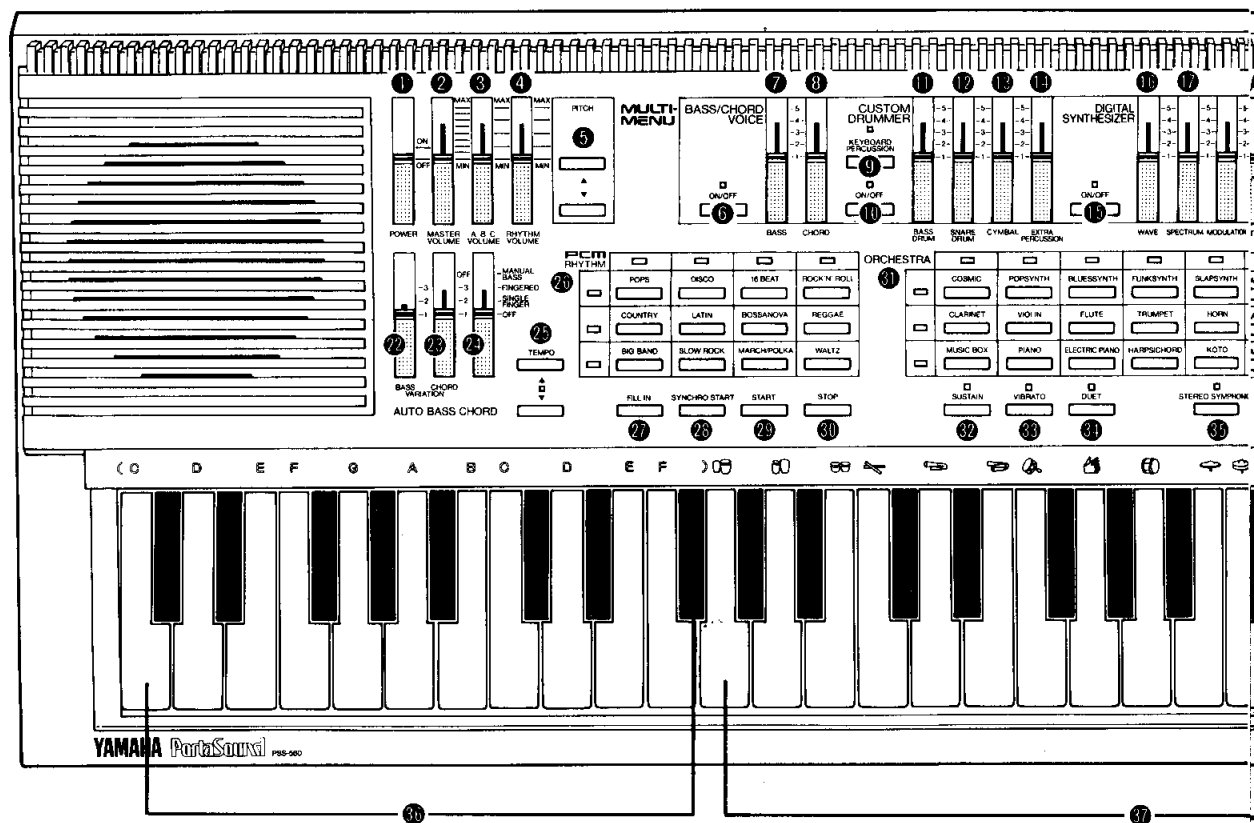
電源アダプター[PA-1]  
 ¥2,000



ソフトケース[SCC-16]  
 ¥3,000

# ポータサウンド一覽

ポータサウンドのボタンやレバーの名まえと、そのはたらき。



## ① パワースイッチ/パイロットランプ

電源を入れるスイッチ。電気が通じればパイロットランプが点灯。

## ② マスターボリューム

全体の音量を調節するレバー。

## ③ A. B. C. ボリューム

オートベースコード(自動伴奏)の音量を調節するレバー。

## ④ リズムボリューム

リズムの音量を調節するレバー。

## ⑤ ピッチコントロール

微妙な音程の調節をするボタン。▲を押せばピッチが1.6セントずつ上がり、▼を押せば同じく1.6セントずつ下がる。もとのピッチ(A3=440Hz)に戻すには、▲と▼を同時に押す。

## マルチメニュー

### ベース/コードボイス (18~25ページ)

#### ⑥ ベース/コードボイスON/OFFスイッチ

オートベースコード(自動伴奏)の音色を選べるベース/コードボイスを使用するときに押すボタン。

#### ⑦ ベースボイス

ベースの音色を選ぶレバー。

#### ⑧ コードボイス

コードの音色を選ぶレバー。

### カスタムドラマー (14~15ページ)

#### ⑨ キーボードパーカッション

鍵盤を打楽器として使用するときを押すボタン。

#### ⑩ カスタムドラマーON/OFFスイッチ

リズムのパターンを変えたいときに押すボタン。

#### ⑪ バスドラム

バスドラムのパターンを選ぶレバー。

#### ⑫ スネアドラム

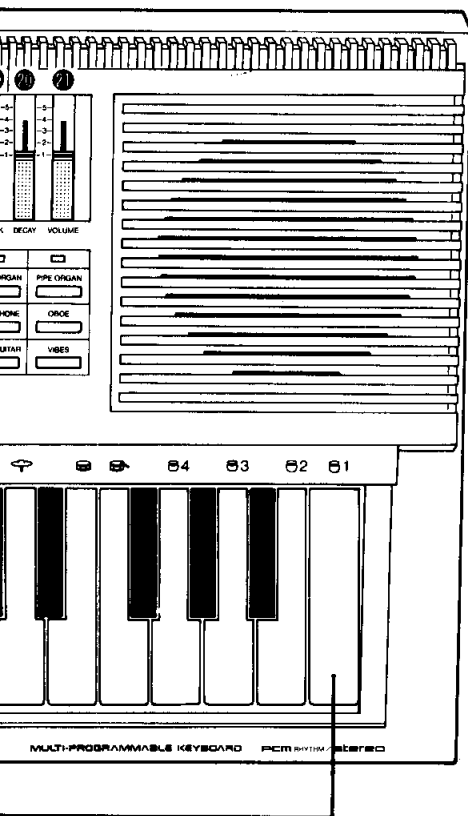
スネアドラムのパターンを選ぶレバー。

#### ⑬ シンバル

シンバルのパターンを選ぶレバー。

#### ⑭ エキストラパーカッション

リズムに特別に打楽器や手拍子の音を加えるレバー。新たに加わる打楽器はリズムによってセットされており、このレバーではそのパターンを選ぶ。



## デジタルシンセサイザー (5～11ページ)

- ⑮ **デジタルシンセサイザーON/OFFスイッチ**  
オリジナルの音色をつくるときに押すボタン。また、これをOFFにして⑯～⑳のレバーを操作すれば、オーケストラ音色から音づくりができる。
- ⑯ **ウエーブ**  
音の波形を選ぶレバー。
- ⑰ **スペクトラム**  
周波数を変化させるレバー。
- ⑱ **モジュレーション**  
変調の度合いを選ぶレバー。
- ⑲ **アタック**  
音の立ち上がりの音量や音色の変化のしかたを選ぶレバー。
- ⑳ **ディケイ**  
鍵盤を押さえているときの音の長さを選ぶレバー。
- ㉑ **ボリューム**  
デジタルシンセサイザーの音量を調節するレバー。

## オートベースコード (16～27ページ)

- ⑳ **ベースバリエーション**  
自動伴奏のベースのパターンを選ぶレバー。
- ㉑ **コードバリエーション**  
自動伴奏のコードのパターンを選ぶレバー。
- ㉒ **オートベースコードセレクト**  
自動伴奏をするとき、指1本のシングルフィンガーか、和音を押さえるフィンガーか、自分でベースのパートを演奏するマニュアルベースかを選ぶレバー。

## リズム (12～15ページ)

- ㉓ **テンポコントロール/テンポランプ**  
リズムのテンポを調節するボタン。▲を押せば速く、▼を押せば遅くなる。テンポランプは、リズムが鳴っているとき小節ごとに点灯するテンポ確認用ランプ。
- ㉔ **リズムセレクト**  
リズムの種類を選ぶボタン。
- ㉕ **フィルイン**  
リズムが鳴っているとき、このボタンを押すとリズムが一時的に変化する。
- ㉖ **シンクロスタート**  
このボタンを押すとリズムスタンバイとなり、オートベースコード用鍵盤を押せばリズムがスタート。
- ㉗ **スタート**  
リズムをスタートさせるボタン。
- ㉘ **ストップ**  
リズムをストップさせるボタン。

## オーケストラ (4ページ)

- ㉙ **トーンセレクト**  
音色の種類を選ぶレバー。
- ㉚ **サステイン**  
音に自然な余韻をあたえる効果のボタン。
- ㉛ **ピブラート**  
音をふるわせてうるおいをあたえる効果のボタン。
- ㉜ **デュエット**  
オートベースコードを使用しているとき、メロディー演奏にハーモニーをつけるボタン。
- ㉝ **ステレオシンフォニック**  
音にうねりを与えて広がりのある効果をかけるボタン。
- ㉞ **オートベースコード用鍵盤**  
自動伴奏をするときに押さえる、伴奏用の鍵盤。
- ㉟ **キーボードパーカッション用鍵盤**  
キーボードパーカッションをONしたとき、打楽器として使える鍵盤。

# アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

■本機の保証は、保証書によりご購入日から満1年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。  
(日本国内のみ有効)

■保証期間の1年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店が右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

## ■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

## ■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の“故障と誤りやすい現象”の項を一度お読み頂き、お確かめください。(ご依頼をお受けして点検いたしますと故障でない場合でも点検代を申し受けますのでご注意ください。)

## ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めて林間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、方々やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけいたしません。)

## YAMAHA 電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル2F TEL. 0252-43-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL. 06-877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内 TEL. 0878-22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター TEL. 052-652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092-472-2134
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL. 011-781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 0222-36-0249
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL. 082-874-3787
(本社) 電音サービス部	〒435 浜松市上西町911 TEL. 0534-65-1158

\*住所および電話番号は変更になる場合があります。

本社	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL. 0534(60)3271
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル TEL. 03(574)8592
大阪支店	〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心齋橋プラザビル東館 TEL. 06(252)5231
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL. 052(201)5145
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2155
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター TEL. 011(512)6113
仙台支店	〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル TEL. 0222(22)6146
広島支店	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL. 082(244)3744

